

第三回 国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会

日時：令和2年11月18日（水）

15:00～17:00

場所：国営海の中道海浜公園事務所

議事次第

1. 開会

2. 議題

1) うみなかビジョン2030（案）について ……資料1

2) 将来像実現に向けた各主体の取組み、フォローアップについて ……資料2

3) 国営海の中道海浜公園 整備・管理運営プログラム（案）について ……資料3

3. 閉会

以上

○配付資料

配席図

資料1-1 うみなかビジョン2030（案）

資料1-2 うみなかビジョン2030（案）資料編

資料2 4つの将来像の取組 フォローアップ様式

資料3 国営海の中道海浜公園 整備・管理運営プログラム（案）

参考資料1 第二回 国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会 議事要旨

参考資料2 海の中道海浜公園の将来像 概ね10年後の公園の主なイメージ

うみなかビジョン2030（案）

～ 国営海の中道海浜公園の将来像 ～

令和3年●月

国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会

はじめに

海の中道海浜公園は、海の中道固有の白砂青松の自然環境の保全、北部九州における広域的レクリエーションの拠点の創出等を目的として設置された国営公園です。

1976年（昭和51年）に事業着手して以来40年以上にわたって事業を実施しており、約540haの緑豊かで広大な空間を最大限に活用した多様なレクリエーションを提供するため、国だけでなく、公園の運営維持管理業務の受託者、水族館（マリンワールド海の中道）やホテル（ザ・ルイガンズ。）等を運営するPFI事業者など、多様な主体が連携して公園の魅力を高めていることが特徴です。

一方で、近年では、少子高齢化、人口減少の進行やライフスタイルの多様化など、様々な社会情勢の変化が生じており、これらの社会情勢やニーズの変化等に柔軟に対応しつつ、公園の魅力を維持・継承していくことが必要とされています。

このため、本公園では、計画的に自然を保全、再生しながらその環境を活かしたレクリエーションを提供するというこれまでの計画理念を継承しつつ、社会情勢の変化等にも柔軟に対応して今後も多くの方に満足頂ける公園であり続ける体制を構築するため、公園管理者、施設の管理運営を行う者、学識経験者、関係地方公共団体等からなる協議会（国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会）を2020年（令和2年）7月に設置しました。

本将来像は、当協議会における協議の結果として、概ね10年後（2030年）に実現を目指す将来像（ビジョン）を明確にしつつ、更にその先の20年後、30年後も本公園が継続的にストック効果を高めたいけるよう、また、公園が中心となって海の中道周辺地域の更なる発展も後押しできるよう、本公園の整備、管理運営に関係する公・民・学が一丸となって計画的な取組を推進するために策定したものです。

なお、本将来像は、今後の事業の進捗状況や社会情勢の変化などをふまえ、必要に応じて適宜見直しを行っていきます。

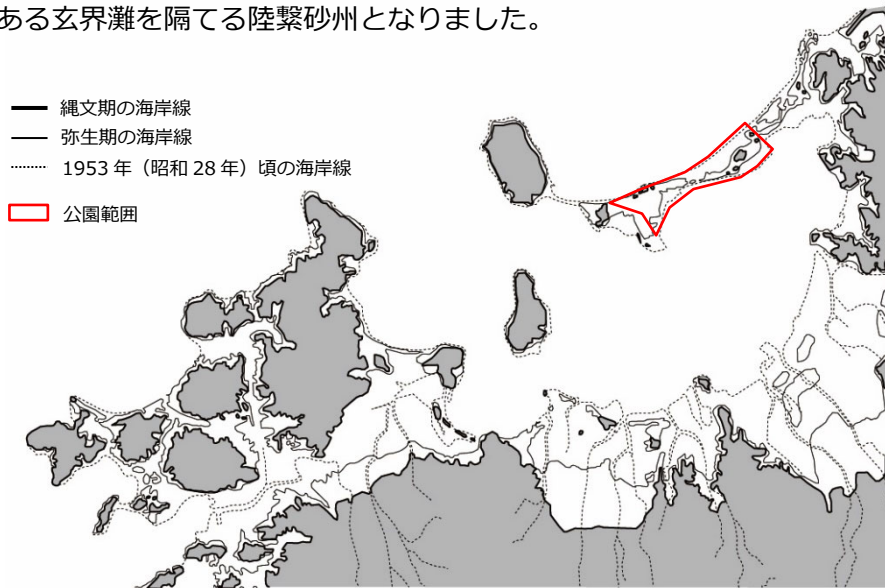
目次

1. 国営海の中道海浜公園の自然、歴史、計画	—————	P1
(1) 海の中道の自然		
(2) 海の中道の歴史		
(3) 自然、景観を守るための法規制		
(4) 国営公園としての設置		
(5) 公園計画		
2. 本公園の現状	—————	P4
(1) 計画面積、供用面積		
(2) 園内の主な施設		
(3) 利用の状況		
(4) 公園整備、管理運営に関わる主体		
3. 今後想定される社会情勢の変化	—————	P6
4. 海の中道海浜公園の将来像	—————	P7
5. 将来像実現に向けた取組	—————	P8
6. 将来像の実現を支える手段	—————	P16
(参考1) エリア別の整備、管理運営の方向性		
(参考2) 海の中道海浜公園魅力向上推進協議会 委員名簿		

1. 国営海の中道海浜公園の自然、歴史、計画

(1) 海の中道の自然

国営海の中道海浜公園（以下、「本公園」という。）が位置する通称“海の中道”は、福岡県福岡市北部に位置する志賀島と九州本土とを繋ぐ砂州の呼称です。古代には、志賀島、大岳、シオヤ鼻などの島々が点々と海上に浮かぶだけでしたが、海流の堆積作用でそれらの島々が繋がることにより、内海である博多湾と外海である玄界灘を隔てる陸繋砂州となりました。



福岡周辺の地勢の変遷

(2) 海の中道の歴史

福岡は、中国大陸や朝鮮半島に近いことから、古くから国が栄え、大陸との交流も盛んでした。海の中道周辺も、8世紀～11世紀の集落跡とみられる「海の中道遺跡」や、「漢委奴国王」の金印発掘地である志賀島などの歴史的な遺産等があります。

海の中道は、大半の表層は砂質で水はけは良好な一方、乾燥しやすく、地下水位が高いため、長い間不毛の地でしたが、江戸時代からクロマツの植林が進められた結果、白砂と松林の固有の景観がうかがえ、筑前国続風土記（1809年）や六十余州名所図会（1855年）等で名所として紹介されています。



金印
(写真：福岡市博物館所蔵)

せしむ。今に至て鹽地を修補し、人力を用るもみな公財を出して備夫をつかひ、村民を勞せず。此故に鹽地を開し初より、貧民共日々勞りて備作し、公養をうけて飽饑に及ばず。今に至てしかり。此鹽地よりて、永く貧民の利養となれる事小ならず。凡國中の鹽地、新舊八所有。昔よりこれある舊き處々も、此鹽地の廣くして町數多しし。又永世まで風波の荒敗ならん事を願て、此所守護の爲に、寶永三年龍土の祠を南方の海濱に、新に建立せし。夫強は日用の民食にて、一日も闕べからざる事米穀につげり。百味の長なる事むべ也。爰を以、五穀を作る田圃につぎては、鹽地の利放廣し。齊の管仲が、桓公の爲に海水を煮て鹽として、利を興せし計、むべなるかな。奈多の白濱は、誠に希世の境地也。村人は此所を海の中道と云。上和白村の下に桂崎有。遠干海有。此所に近き故、此邊をかつら海と云。立花山、香椎山よりもついできたれば、山までつらくとよめりと云。

奈多の白濱は、誠に希世の境地なり。
村人はここを海の中道と云う。

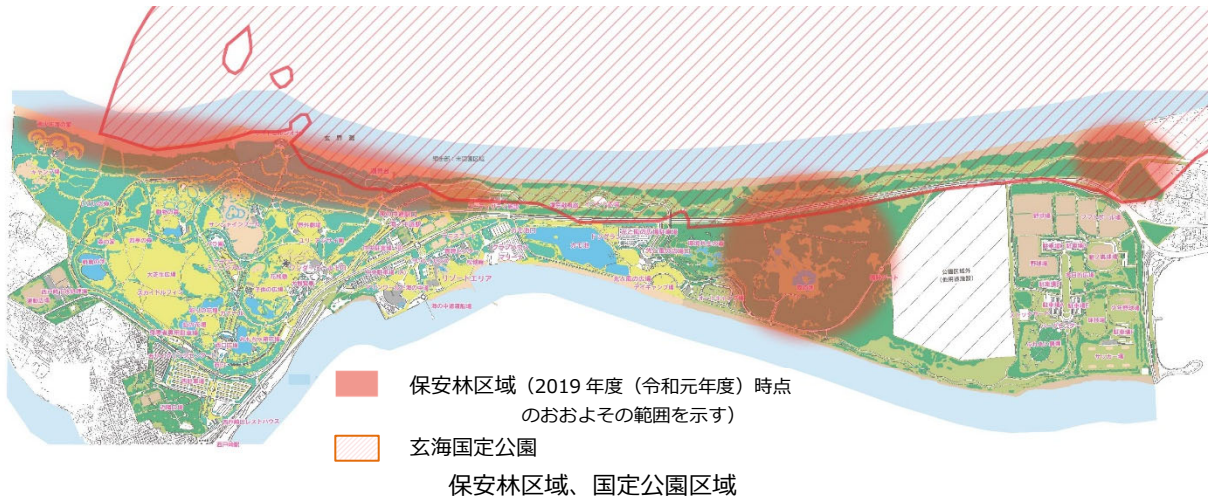
筑前国続風土記 19 卷
貝原益軒著（1809年）



六十余州名所図会 筑前 筥崎海の中道
歌川広重（1855年刊）

(3) 自然、景観を守るための法規制

長年のマツの植栽等により形成された白砂青松の海岸景観は、優れた風致の保護を図るべき場所として、1956年（昭和31年）に玄海国定公園に指定され、一定の開発が制限されています。また、形成された松林の多くは、防風や飛砂防止等の観点から保安林として指定され、伐採等の制限により守られています。



(4) 国営公園としての設置

海の中道には、1936年（昭和11年）に日本最初の民間飛行場である雁ノ巣飛行場が建設され、戦後の1945年（昭和20年）には米軍博多基地が設置されていました。

その後、米軍の撤退に伴い、1972年（昭和47年）に米軍基地の一部（515.8ha）が返還されましたが、その跡地利用については、様々な要望書が提出されました。その中で、公用公共用の用途に当たらない要望は返還され、1973年（昭和48年）の国有財産北九州地方審議会返還財産部会における「本施設跡地の立地条件並びに玄界灘の海岸線、白砂地帯及び松林等に代表される、優れた自然景観等、現地の実情から見て大規模公園用地として認められること、また、福岡県及び福岡市の熱心な要望もあり貴重な自然景観を最大限に活かした大規模公園を整備することは適当である」との合意により、大規模公園用地として利用することが決まりました。

そして、1975年（昭和50年）に福岡県により都市計画公園「海の中道海浜公園」の都市計画決定がなされ、その事業主体については、1976年（昭和51年）の都市公園法改正により創設された国営公園制度に基づき、国が整備・管理を行うこととなりました。



雁ノ巣飛行場



米軍キャンプ

(5) 公園計画

(1)～(4)の自然、歴史、経緯等を踏まえ、本公園は以下のような理念、方針等に基づき整備を行っています。

○基本理念 ※要約

基礎条件：“海の中道”の歴史的形成過程とその進化の方向性と自然生態的段階の認識

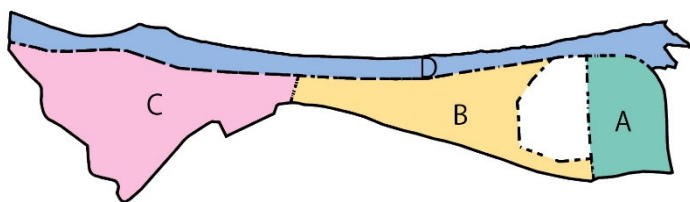
テーマ：海の中道の自然体系と21世紀へ向けての文化・レクリエーション展望の共生環境の創造

○基本方針 ※要約

a.社会条件に対して	<ul style="list-style-type: none"> ○福岡市のレクリエーション一大拠点、北部九州圏域の広域緑地系統の一環として位置付け。即ち、日帰り利用を主体としながらも、既存施設を活用した宿泊利用も考慮。 ○隣接、近隣地域への本公園建設が与える影響を十分検討して、共存関係が成立するための条件に配慮しながら計画策定を進める。
b.自然条件に対して	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな造成に当たっては、既存の植生、地質、土壌条件等を十分考慮する。 ○全域が地表を除いて砂地である為、土壌改良又は土壌置換を行う事により植栽に適した土壌条件をつくる。 ○臨海性の植生を改善し二次林の形成を促進しつつ、緑地帯を拡大発展させる。 ○淡水と塩水の自然的バランスを破壊しないように池の造成を考慮する。
c.計画条件について	<ul style="list-style-type: none"> ○スケールメリットを生かし自然公園的な性格をベースに通年利用可能な計画とする。 ○利用需要の多い夏季の海岸レクリエーション利用に対しては特別に考慮。ただし海岸線の現状保全を前提とし、一部浸蝕防止対策を行う。 ○北から吹く潮風の防風処置を植栽や盛土により講じる。 ○限界利用者に対して利用抵抗を小さく各年齢層の人々が平等に楽しめる企画を立案。 ○池の造成の切盛は整合させる。池は自然な地下水位の変動に対応するものとする。

○土地利用計画（ゾーニング）

本公園は、それぞれの立地特性等からA～Dの4つのゾーンに分けて計画されています。各ゾーンは「緑の樹林」「碧い海」そして「輝く太陽」を基調に、全体的調和を図りながら新たなランドスケープを創造することを目指して計画されています。

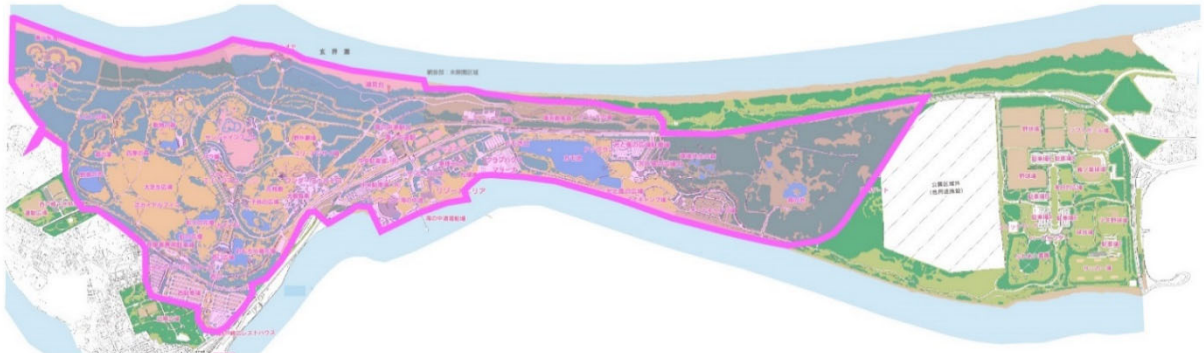


- A地区 樹木とスポーツの広場
- B地区 樹木とピクニックの広場
- C地区 樹木と文化・いこいの広場
- D地区 海浜といこいの広場

2. 本公園の現状

(1) 計画面積、供用面積

本公園は、1981年（昭和56年）に開園して以降、順次開園区域を拡大しており、計画面積539.4haのうち349.7ha（約65%）を供用しています。



2020年（令和2年）10月1日時点の供用区域

(2) 園内の主な施設

園内には、大芝生広場、遊具などのほか、動物と直接ふれあうことができる動物の森、水族館（マリンワールド海の中道）やホテル（ザ・ルイガンズ）、サンシャインプールなどの多様な施設があります。

1 青少年海の家

雄大な玄界灘に面し、研修・宿泊棟やキャンプ場などを有する社会教育施設。



2 動物の森

動物と直接ふれあうことの出来る動物園。



3 サンシャインプール

6つの多様なプールを備える西日本最大規模のレジャープール。



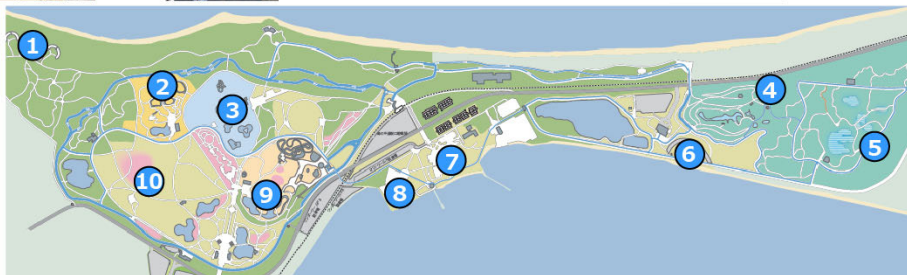
4 環境共生の森

森づくりを行うエリアに位置付け、地域の皆さんと協働で苗木を植えている。



5 森の池

まとまったクロマツ林が成立し、降雨状況によって「池」が出現するエリア。



6 デイキャンプ場

博多湾を眺めながらバーベキューが楽しめる施設。



10 大芝生広場



広大な芝生の広場は各種スポーツ大会など様々なレクリエーションが楽しめる自由な空間。

9 子供の広場・花栈敷



小さな子供たちのための遊具やアスレチックなどを備えた自然と親しみ、のびのびと自由に遊べる空間。花栈敷では大規模な花修景を展開。

8 マリンワールド海の中道

イルカやアシカのショー、巨大なシロワニが泳ぐパノラマ水槽など見どころがいっぱいの水族館。



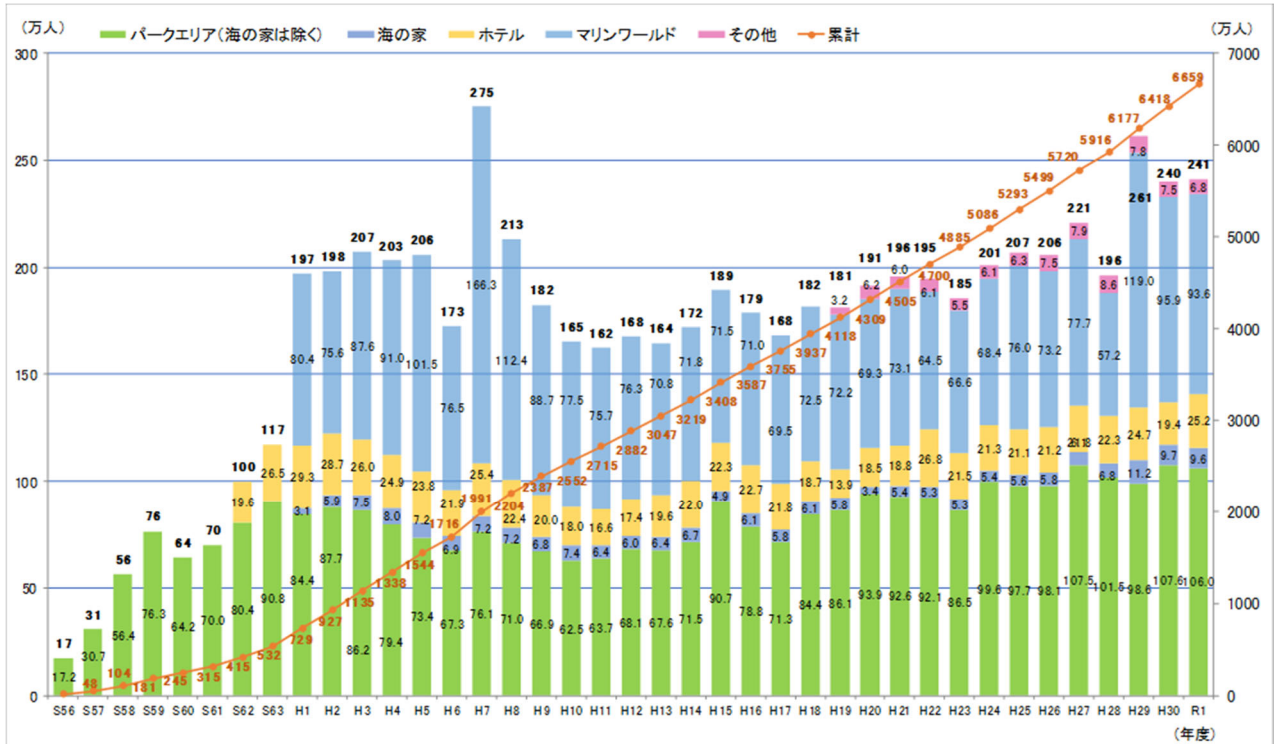
7 ザ・ルイガンズ

全室博多湾に面し、リゾートライブを演出する様々な施設がそろったホテル。



(3) 利用の状況

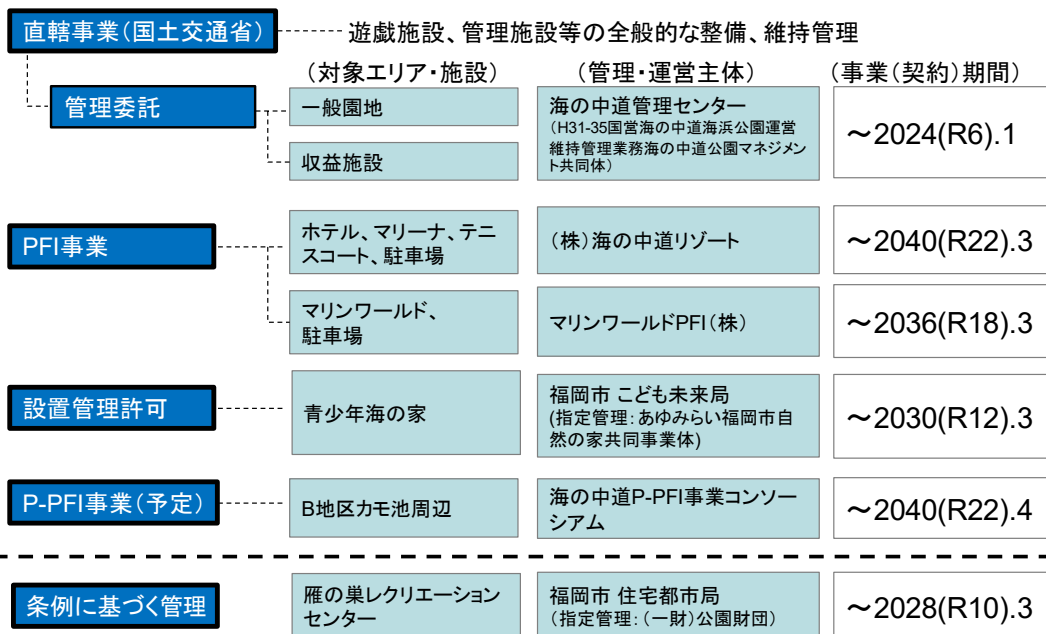
1981年度（昭和56年度）に開園以降、施設の充実に伴って利用者数は増加し、2019年度（令和元年度）までに累計で約6,659万人の方に利用頂いています。



公園利用者数の推移

(4) 公園整備、管理運営に関わる主体

本公園は、国が公園管理者として公園全体の整備、管理運営を行っています。PFI法に基づくPFI事業など、民間事業者等による水族館、ホテル等の整備、運営を組み合わせることで、官民連携により多様なレクリエーションを提供しています。



整備・管理運営の体制

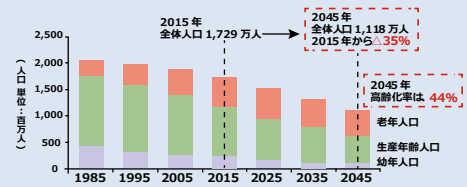
3. 今後想定される社会情勢の変化

本公園は、当初の計画理念等に基づきつつ、社会情勢やニーズの変化にも柔軟に対応しながらこれまで整備、管理運営を行ってきました。今後も、少子高齢社会の進展や新しい生活様式への対応など、社会の変化等に対応してそのストック効果を高めていくことが必要です。

■ 主な社会情勢の変化の例

■ 人口減少、少子高齢化

全国的に人口減少・少子高齢化が進み、その傾向は今後も継続することが見込まれる。健康の増進、高齢者の社会参加の推進などがより重要に。



(出典) 社会資本整備審議会 第44回計画部会 (R2.4.30) 資料より作成 (原典は以下)
2005年まで：総務省統計局「国勢調査報告」
2015年：総務省統計局「平成27年国勢調査人口等基本集計」
将来の推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成30年推計)より作成
(注) 福島県は県全体の推計しか行われていないため集計の対象外。



【SDGsにおける17の国際目標】

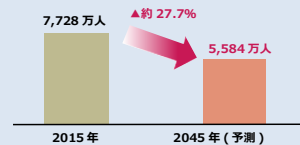
(出典) 外務省 HP JAPAN SDGs Action Platform

■ ライフスタイルの多様化

物の豊かさから心の豊かさを求める価値観へ移行する中、持続可能で多様性のある社会の実現に向けた取組がより重要に。

■ 経済情勢の変化

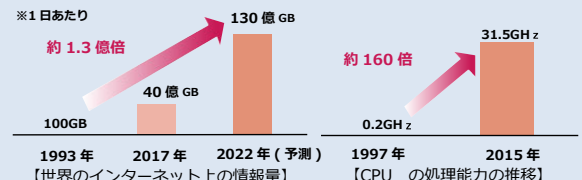
アジア諸国の経済活動が拡大し、国際競争が激化する中、国内の生産年齢人口は低下。アフターコロナに向けた国際観光需要拡大の取組がより重要に。



(出典) 社会資本整備審議会 第44回計画部会 (R2.4.30) 資料より作成 (原典は以下)
総務省「人口統計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成29年推計)

■ デジタル革命の本格化

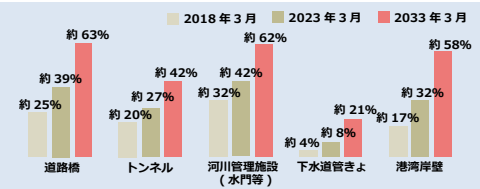
情報通信技術等の進展に伴い、ICTの利活用、データや新技術を活用した管理の効率化等がより重要に。



(出典) 社会資本整備審議会 第44回計画部会 (R2.4.30) 資料より作成 (原典は以下)
総務省「平成27年版情報通信白書」

■ インフラの老朽化

高度経済成長期に整備された道路、公園等の社会資本の老朽化が今後加速度的に深刻化。予防保全に基づく効率的・効果的なメンテナンスがより重要に。



(出典) 社会資本整備審議会 第44回計画部会 (R2.4.30) 資料より作成

■ 新しい生活様式への対応

新型コロナウイルス拡大を受け、働き方の見直し、新しい生活様式の定着が求められる。ウィズコロナ、ポストコロナ時代に感染症等のリスクの拡大にも柔軟に対応できる健康的で豊かな生活を送るため、公園の存在はより重要に。



(出典) 全国都市公園整備促進協議会 New Normal Park Life ポスター

4. 海の中道海浜公園の将来像

本公園が、多様な施設、多様な主体により構成されていることを強みとして、今後想定される社会情勢の変化等に柔軟に対応し、計画的に公園の魅力・ストック効果を高めていくためには、国、民間事業者等の全ての主体が、明確なビジョンを共有した上で、その実現に向けた取組を推進することが重要です。

このため、本公園では、概ね 10 年後（2030 年頃）に実現を目指す将来像として以下の 4 つを掲げ、これらの実現に向けて、園内の全ての者が一体となって取り組みを進めていきます。

将来像 1 「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園

将来像 2 海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園

将来像 3 心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園

将来像 4 多様な人の多様な学び、活躍を支える公園

■ 概ね 10 年後の公園の主なイメージ

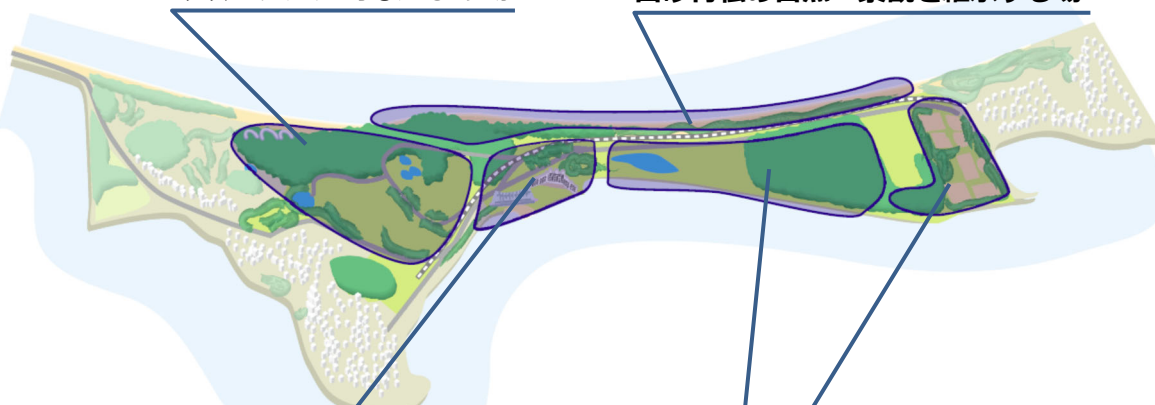
以下は、将来像 1～4 の実現に向けた取組の結果として 10 年後に実現している公園内の各場所の主なイメージを示したもの。将来像と各エリアでの取組との詳細な対応関係は参考 1 参照。



今以上に魅力的な遊びの場



白砂青松の自然・景観を継承する場



快適に過ごせる癒やしの場

大人も楽しめる、学べる場

健康的なライフスタイルを支える場



5. 将来像実現に向けた取組

将来像1 「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園

本公園の多様な施設、豊かな自然を活用してより一層多様な楽しみ方を提供することで、本公園を訪れる方が元気になるとともに、本公園の存在が周辺地域の一層の発展、活性化に寄与するよう、以下のイメージの実現を目指して取組を推進します。

概ね 10 年後の公園のイメージ

- 多様な施設がそれぞれの強みを活かし、連携してより多様な楽しみ方を提供することで、地域の住民はもとより、世界中からここでしかできない体験を求めて人々が訪れる公園となっている。
- 博多湾側に海浜レクリエーションを楽しむことができる新たなエリアが整備され、より海を楽しむことができる公園となっている。
- ファミリー層に加えて、子育てが終わった世代やカップルも公園に足を運んでもらえるようなエリアが創出され、より幅広い層に利用頂く公園となっている。
- 金印が出土した志賀島等の歴史的資源や、西戸崎、雁ノ巣地区、アイランドシティ等の周辺地域とも一体となって海の中道の魅力を発信し、海の中道周辺地域の全体が活気づいている。

■ 具体的な取組

○ 多様な主体との連携、一体的な発信

多様な施設を有する本公園の魅力をより高めるためには、各施設がより一層連携を強化し、相乗効果により公園のポテンシャルを最大限に発揮することが必要です。

また、公園だけでなく、公園の外の地域、資源との連携を深めることで、“海の中道”として公園と地域が今後も魅力を増し、Win-Win で発展し続けられるよう、以下の取組を進めます。

項目	今後の具体的取組
公園の中の 連携強化	<ul style="list-style-type: none">○本公園の将来像の実現に向けて「国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会」で各主体の連携を強化し、継続的なフォローアップを行う。○園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。
公園の外との 連携強化	<ul style="list-style-type: none">○公園、志賀島や西戸崎等の地域関係者がオールうみなかで地域の魅力を発信する「(仮称)うみなかたび推進会議」を設置し、ポータルサイトなどによりエリアで一体となった情報発信を行う。

○海の中道ならではの多様なレクリエーションの提供

博多湾と玄界灘という2つの海を有する国営公園として、その立地を活かした多様なレクリエーションを、多様な層に提供していきます。

項目	今後の具体的取組
多様なニーズへの対応	<p>○既にファミリー層の利用者が多いC地区はその魅力をより強化、Park-PFI事業が開始されるB地区は大人向けエリアとして整備・管理運営を行うなど、利用状況、特徴等に応じた各エリアの差別化を一層推進し、多様な層へ多様な楽しみ方を提供する。</p> <p>○日本と世界を繋ぐ、公園内外を繋ぐ、人と人とを繋ぐ「繋がりの中道駅」として海の中道駅口をリニューアルする。</p>
海の魅力の発揮	<p>○穏やかな海に面した砂浜が広がるB地区未供用区域を、海と触れ合うことができる海浜レクリエーション空間として整備する。</p> <p>○博多湾、玄界灘海浜部での海や砂浜を活用したアクティビティを導入する（SUP、カヤック、ホースライディング等）。</p>
食の魅力の充実	<p>○地産地消、食育等などのテーマ性のある食の提供、地域と連携したマルシェの開催など海の中道ならではの飲食サービスを充実させる。</p>



大人が楽しめる場の整備（B地区）



海辺のアクティビティの導入



マルシェの開催
(出典：吉野ヶ里歴史公園)

○地域活性化への貢献

公園が賑わうだけでなく、公園を起点とした周辺地域の利用を促すツーリズムの推進など周辺地域と一体となった取組みにより、より一層地域活性化に貢献します。

項目	今後の具体的取組
地域活性化	<p>○地元と連携し、収穫体験、釣り体験等のアクティビティ、志賀島と連携したサイクルツーリズムなど、公園を起点とした地域観光への誘導を推進する。</p> <p>○地域との連携によるイベントの開催などにより、公園と地域の集客施設等との相互利用を促進する。</p>



サイクルツーリズムの促進

将来像2 海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園

江戸時代までは人も住めず、植物も生えない不毛の砂地だった海の中道を、花・緑豊かな公園として整備してきたこれまでの取組を後世に継承し、白砂青松の固有の景観を保全するとともに、その価値、大切さを伝えるため、以下のイメージの実現を目指して取組を推進します。

概ね 10 年後の公園のイメージ

- 海の中道固有のマツ林が保全、再生され、白砂青松の景観が後世も変わらず遺されている。
- 市民との協働による森づくり等によって豊かな自然環境・生態系が創出されており、その過程を通じて市民等が自然や生き物の大切さについて学んでいる。
- 園内の施設間の連携による環境学習メニューの充実などにより、公園全体が環境学習のフィールドとなっている。

■ 具体的な取組

○海の中道固有の白砂青松の景観の保全、再生

白砂青松の自然、景観を保全するため、以下の取組を継続的に実施します。

項目	今後の具体的取組
マツ林育成	<ul style="list-style-type: none"> ○玄界灘側の D 地区未供用区域のマツの植栽等を推進する。 ○樹幹注入等の松くい虫対策や植林箇所の密度管理等、マツ林の育成保全の取組を継続して実施する。
多様な主体との協働	<ul style="list-style-type: none"> ○公園内外のマツ林育成保全のため、マツ林の保全活動に取り組む自治体、市民団体等との協働、情報共有等を推進する。 ○江戸時代から続くクロマツ林の植林の取組みを紹介するガイドツアーやボランティアによる植栽、海岸清掃などを通じて市民と協働で白砂青松の景観を保全する。



マツの植林



ボランティアによる海岸清掃の実施



クロマツの植林の歴史を学ぶガイドツアーの実施

○教育施設、環境学習フィールドとして活用

園内外の多様な人材、自然資源をうまく活用・連携させながら、公園全体を教育、環境学習のフィールドとして活用します。

項目	今後の具体的取組
人材育成	○環境教育の指導者を養成する講習会の開催など、人材育成の取組みを推進する。
環境学習	○森の池、動物の森、マリンワールド海の中道など園内の多様な資源を活かすとともに、関係機関等との連携により、多様で、学習効果の高いプログラムを提供する。



ボランティア講習会の実施



生き物観察



希少種の保全活動
(本公園でのニッポンバラタナゴ保全活動)

将来像3 心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園

福岡市の中心部に近接したみどり豊かで開放的な空間が、市民の心豊かで健康的なライフスタイルを支える場、新型コロナウイルス感染症対策等に伴う運動不足、ストレスを解消する場として活用されるよう、以下のイメージの実現を目指して取組を推進します。

概ね 10 年後の公園のイメージ

○野球、サッカー等の競技スポーツからジョギング、サイクリング等の手軽な運動まで、年齢層や競技レベルに応じた運動施設、運動メニューが充実し、市民の健康増進の場として活用されている。

○みどり豊かで開放的な空間が、感染症対策等に伴う運動不足、ストレス蓄積を解消する場、癒やしの場として、新しい生活様式に基づき楽しく利用されている。

■ 具体的な取組

○スポーツ・レクリエーションの場としての機能充実

国営公園予定地である雁の巣レクリエーションセンターとの連携・役割分担により、スポーツ・レクリエーション機能の充実を図ります。

項目	今後の具体的取組
運動	<p>○既に市民の多様なスポーツの場として親しまれている雁の巣レクリエーションセンターの区域を、福岡市が管理する現行の形を基本として国営公園として供用するとともに、他の公園区域との連携を強化する</p> <p>○園内の園路の改修等により、サイクリング専用コースやジョギングコースなどの運動ができるコースの設定を行う。</p>



(初心者向けのテニス教室)



(本格的な競技利用)



(サイクリング)

多様なスポーツの場の提供

○健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実

今後も進行する高齢社会の中での健康の維持・増進の場として、心の癒しとなる場としての機能をより充実させていきます。

項目	今後の具体的取組
健康増進	<ul style="list-style-type: none"> ○海浜部を活用したビーチラン、ビーチヨガなど、海の中道の自然が満喫できる魅力的な健康プログラムを実施する。 ○テニスコートやサンシャインプールなど、多くの既存施設の特性を生かした健康プログラムを充実させる。 ○志賀島-海の中道サイクルツーリズム協議会や福岡県・福岡市の健康や学習に関する施策と連携した取組を推進する。
癒やし	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ○花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。



海の中道の自然を生かした健康プログラム



高齢者スポーツ



花を觀賞しながら食事
(出典：淡路ハイウェイオアシス HP)

将来像4 多様な人の多様な学び、活躍を支える公園

今後増加するシニア世代が公園を通じて社会とつながる場・活躍できる場、多様なニーズに応じた多様な学びの場、年齢、性別、障がいの有無等に関わらず全ての人が目的に応じて園内を円滑に移動し、楽しめる公園となるよう、以下のイメージの実現を目指して取組を推進します。

概ね10年後の公園のイメージ

- ニーズに応じた多様な学びのメニュー、市民参加のメニューが充実し、シニア世代が生き生きと活躍する場となっている。
- 大人向けの体験メニュー、学びのメニューが充実し、子供から大人まで多様な世代が学びを深める場となっている。
- ユニバーサルデザインで施設が整備され、徒歩、自転車、バスや新たな移動モビリティなど多様な園内移動手段が充実することで、誰もが円滑に移動し、楽しむことができる。

■具体的な取組

○市民参加の場の充実

市民が主体的に企画するプログラムや個人の知識、特技等を活かしたプログラムなど、よりやりがいのある市民参加メニューを充実させます。

項目	今後の具体的取組
市民参加	○市民発案のプログラム、地域の方がインストラクター・講師等となったプログラムなど、市民が主体的に提供するプログラムを充実する。

○学びの場の充実

子供だけでなく、大人も含めて充実した質の高い学びができるプログラムを充実していきます。

項目	今後の具体的取組
学びの充実	○様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ○食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。



昔遊び指導ボランティア



公園での企業研修

(写真提供：株式会社フォレストアドベンチャー)



園内でのネイチャー写真教室

(出典：鹿児島市公園公社 HP)

○ユニバーサルデザインの考えに基づく整備・管理運営

ユニバーサルデザインの考え方に基づき、今後も安全・安心して快適に公園を利用頂けるよう施設整備・改修等を推進するとともに、広い園内の移動の円滑化に向けた取組を行います。

項目	今後の具体的取組
ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインによる園路や施設の整備、改修、本公園の災害時の避難場所としての機能を高めるための施設の耐震化を推進する。 ○障がいの有無にかかわらず、公園の楽しさを享受できるプログラムや施設の充実を図る。
園内移動	<ul style="list-style-type: none"> ○公園全体の交通ネットワークの再整理を行った上で、サイクリングコースやバスルートの再編、新たな休憩・交通の拠点の整備など必要な対策を実施する。 ○広い公園をスムーズに、楽しく移動できる新たなモビリティの導入などにより、園内の回遊性を高める。



車いす利用者のサイクリング



新たな移動手段の導入（電動キックボード）



すべての子どもたちが一緒に楽しめる遊具の整備
(東京都建設局東部公園緑地事務所資料より)

6. 将来像の実現を支える手段

4つの将来像を実現するためには、公園内の各関係主体が今後10年間にわたって継続的に、計画的に取組を実施していく必要があります。

そのため、各関係主体が、それぞれの強みを活かして役割分担しつつ、かつ必要に応じて連携し、優先順位を明確にしながら将来像実現という目的を達成するための手段として、以下に留意した継続的な取組を推進します。

①継続的にサービスレベルを高める好循環の形成

本公園は、多種多様な質の高いサービス、体験を提供するため、民間事業者がそのノウハウ等を活かして設置・運営している施設が多く、利用者からの施設利用料金等に基づいてそのサービスレベルを維持・向上させています。

このため、本公園では、より質の高いサービスを提供していくことで、より多くの方にご来園頂き、それによって得られる収益を更なるサービスの向上に活用して、更に多くの方にご利用・ご満足頂く、という好循環を形成していくことを目指します。

②インフラ管理の効率化

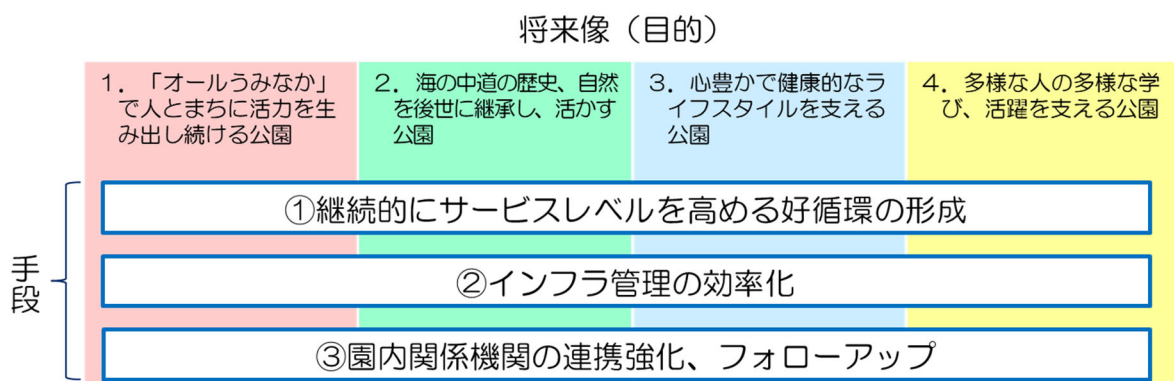
本公園は、約540haという広大な空間と豊かな自然を最大限に活かして、多様なレクリエーションを提供していくことを目指していますが、それを支える上下水道等のインフラや各種施設を、限られた予算で効率的・効果的に整備、管理していく必要があります。

このため、将来像実現に向けた取組の実施にあたっては、老朽化した施設の更新のタイミングに合わせた長寿命化対策、施設の集約再編などの選択と集中、ICT等の新技術の活用など整備、管理の効率化もあわせて検討していきます。

③園内関係主体の連携強化、継続的なフォローアップ

将来像は、策定して終わりではなく、その実現に向けた着実な取組とそれを支える継続的な仕組みが重要です。

このため、国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会で毎年度取組のフォローアップを行うとともに、園内の関係主体がその取組の進捗の確認、連携の強化を図るための会議を定期的で開催していくことで、将来像実現に向けた継続的なフォローアップを行っていきます。

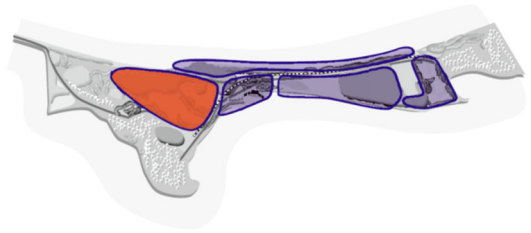


(参考1) エリア別の整備、管理運営の方向性

現在の公園利用の中心エリア (C・D地区) ⇒ 今以上に魅力的な遊びの場へ

(現状)

大規模遊具、動物の森、プール、大芝生広場、フラワーミュージアムなど多種多様な施設が集中した、ファミリー層を中心に人気のエリア。



(将来)

- 緑豊かで開放的な空間の中で元気よく遊べるフィールドとしての魅力をより高めるため、ニーズの変化に応じた遊具のリニューアル、体験アクティビティの充実などを進める。
- 広いエリアをより円滑・快適に移動できるよう、園内交通のルート再編や新しい移動手段の導入等に取り組む。
- 当初開園時の1981年(昭和56年)に整備された施設が多いエリアでもあるため、安全で魅力的な施設を継続的に維持管理できるよう、老朽化施設の統廃合等により管理の効率化を図る。

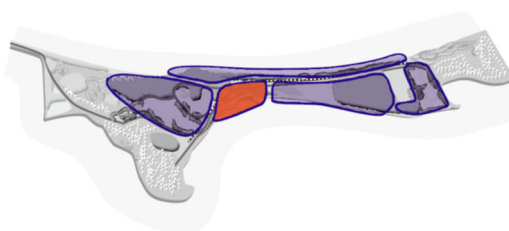
<主な施設の整備・改修計画内容>

- サイクリングコースの改修 (長距離サイクリング用コース、施設移動用コース等への再編)
- レストハウスのリニューアル (老朽化したレストハウス等の集約再編)
- 遊具のリニューアル



（現状）

ホテル、水族館、マリナー、テニスコートなどの多様なリゾート施設が位置。鉄道・船などの公共交通機関を利用した旅行者が多く入園する場所。



（将来）

- 福岡都心から近い位置にある非日常の癒しの空間としての魅力をより高めるため、施設間の連携をより強化して、立地・景観等を活かしたより多様なサービスを提供する。
- 鉄道・船等の公共交通を使う旅行者が多く、今後より東側に広がる開園区域へのアクセス拠点として一層重要性を増す海ノ中道駅口ゲートとその周辺を交通ターミナル拠点として再整備する。

＜主な施設の整備・改修計画内容＞

- 海の中道駅口周辺のリニューアル（休憩場所の拡充、飲食・物販施設の導入、初めての方でも行き先が分かりやすい導線への見直し、大人も楽しめるフォトジェニックな景観創出 など）

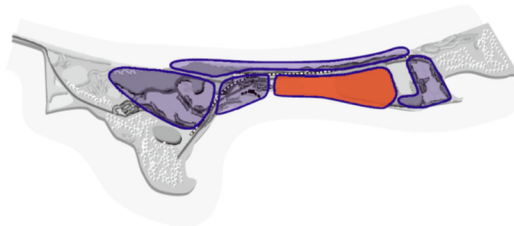


※（ ）内の数字は対応する将来像の番号を示す

環境との共生エリア（B・D地区） ⇒ 大人も楽しめる、学べる場へ

（現状）

環境共生の森、デイキャンプ場、森の池など自然を主体としたエリア。環境の保全・創出や環境学習に重点を置いた管理運営を実施。

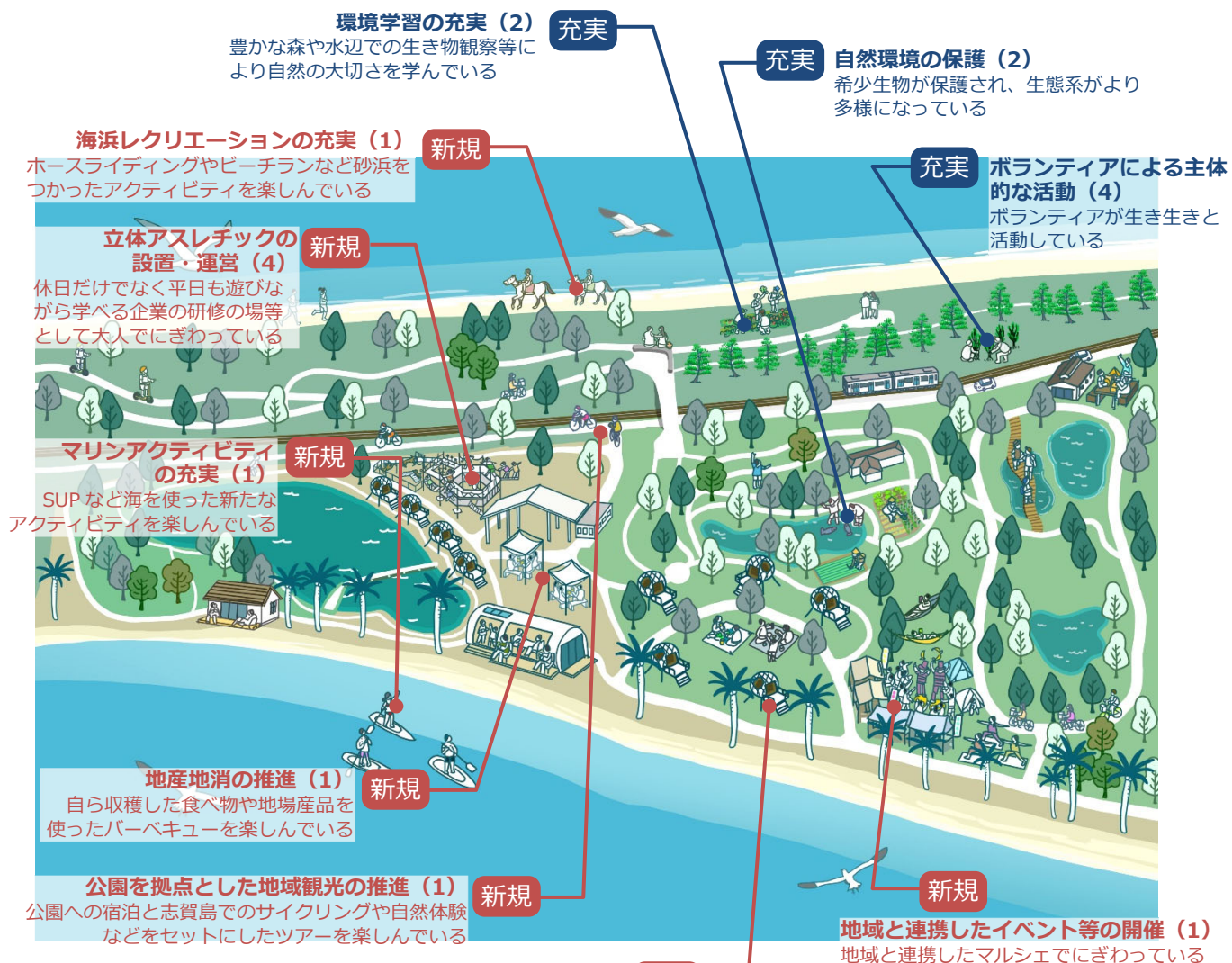


（将来）

- 裸地から数十年かけて森を形成することを目指している環境共生の森において、ボランティア等との連携による森づくりを継続的に推進し、多様な生物が生息できる環境を創出する。
- 豊かな自然環境を活かした環境学習プログラム、自然体験プログラムを充実させ、自然と共生しながらその大切さを学び、後世へ伝える。
- 飲食施設や立体アスレチックなど整備、SUPやカヤックなど海や自然を活かしたアクティビティの充実により、大人も含めた多様な世代へ魅力を提供する。

<主な施設の整備・改修計画内容>

- Park-PFI 事業による新たな滞在型レクリエーション拠点の整備（球体テント、立体アスレチック、飲食施設 等）

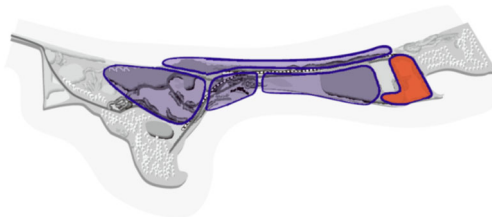


※ () 内の数字は対応する将来像の番号を示す

未開園区域 (A・B 地区) ⇒ 健康的なライフスタイルを支える場へ

(現状)

国営公園としては未整備の区域。福岡市が条例に基づき管理している「雁の巣レクリエーションセンター」が位置。



(将来)

- 既に市民の多様なスポーツの場として親しまれている雁の巣レクリエーションセンターと隣接する B 地区の未開園区域の整備を推進し、エリア一帯を健康増進・運動の場として供用する。
- 穏やかな博多湾に面した砂浜において、海を感じるスポーツ、アクティビティ、自然体験プログラム等を実施し、公園内で最も海を感じることができる場所とする。

<主な施設の整備・改修計画内容>

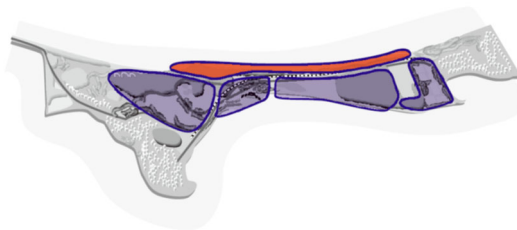
- 博多湾側 (B 地区未供用区域) に園路、ジョギングコース、休憩施設等を新たに整備



玄界灘海浜部エリア（D 地区） ⇒ 白砂青松の自然・景観を継承する場へ

（現状）

波風の強い玄界灘側に位置し、マツ林が保全できている場所、飛砂等によりマツ林が衰退している場所、新たにマツを植栽している場所などがある。



（将来）

- マツの植栽や、松くい虫対策など、マツ林の育成保全の取組を継続する。
- マツ林の保全活動に取り組む自治体、市民団体等との協働、情報共有等を推進するとともに、江戸時代から続くクロマツ林の植林の取組みを紹介するガイドツアーやボランティアによる植栽、海岸清掃などを通じて、市民と協働で白砂青松の景観を後世に継承する。

<主な施設の整備・改修計画内容>

●マツの植栽等



※（ ）内の数字は対応する将来像の番号を示す

(参考2) 協議会委員名簿

国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会 委員名簿

敬称略 ◎：会長

	氏 名	所 属	役 職
学 識 経 験 者	大江 英夫	一般社団法人 九州スポーツツーリズム推進協議会	シニアアドバイザー
	◎ 包清 博之	九州大学大学院 芸術工学研究院 環境デザイン部門	教授
	久保田 家且	西日本短期大学	副学長 教授
	高取 千佳	九州大学大学院 芸術工学研究院 環境デザイン部門	准教授
	福岡 孝則	東京農業大学地域環境科学部 造園科学科	准教授
園 内 関 係 機 関	八波 信行	海の中道管理センター	管理センター長
	東 圭司	(株)海の中道海洋生態科学館 マリンワールドPFI (株)	代表取締役社長
	水口 丈史	(株)Plan・Do・See ザ・ルイガンズ	ゼネラルマネージャー
	佐々木 露子	(株)ササキコーポレーション 海の中道マリーナ&テニス	支配人
	安部 倫太郎	福岡市 海の中道 青少年海の家 指定管理者 あゆみらい福岡市自然の家共同事業体	所長
	上田 寛	海の中道P-PFI事業コンソーシアム/三菱地所(株) 都市開発部	ユニットリーダー
地 方 公 共 団 体	原田 昌宏	福岡県 建築都市部 公園街路課	課長
	奥田 正浩	福岡市 住宅都市局 花とみどりのまち推進部	部長
公 園 管 理 者	澤田 大介	九州地方整備局 建政部	公園調整官
	平塚 勇司	九州地方整備局 国営海の中道海浜公園事務所	事務所長

うみなかビジョン2030（案）

～ 国営海の中道海浜公園の将来像 ～

資料編

令和3年●月

国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会

目次

資料 1. 海の中道海浜公園の歴史	_____	P1
資料 2. これまでの計画・設計	_____	P5
資料 3. 各エリアの整備状況（パークエリア）	_____	P6
資料 4. 各エリアの利用状況	_____	P8
資料 5. 未開園区域の現状	_____	P10
資料 6. 公園整備・管理運営によるストック効果	_____	P14
資料 7. 社会情勢の変化	_____	P19

資料1 海の中道海浜公園の歴史

(1) 平安時代から昭和まで

海の中道遺跡 (8世紀～11世紀)

海の中道遺跡は太宰府政庁に直属した厨戸(くりやべ)の集落跡と見られている。出土品としては、製塩土器や漁具、調理具のほか、灰釉陶器の薬壺、役人が制服の腰帯に飾った石袴、「唐草双鳳八稜鏡」など、上層階級が使った特異な異物がある。

元寇 1281年(弘安4年)

文永の役では、福岡市外に上陸し戦った元軍だったが、2度目の来襲時には海岸線一帯は防塁で防備されており、やむなく志賀島を選んで上陸したらしいと予測されている。

現在、島には、文永の役の際に逃げ遅れた蒙古軍を葬った地に建立された「蒙古軍供養塔」、弘安の役の際に高野山の僧侶が蒙古退散を祈って安置した不動尊が、そして実際に蒙古軍が退散した際に火焰の部分が残されていたのでそれを記念した「火焰塚」がある。

海の中道の植林 1660年(万治3年)

加藤弥左衛門は以前より西戸崎の不毛の砂地に土を入れ松の植林を試みていたが、根付けに成功し、これより本格的植林が始まった。

この時期、黒田長政が徳川幕府の下博多に入り、新田の開墾や植林などを奨励し、生の松原や百道松原などを形成したらしい。海の中道の植林もこの流れの中で行われたものかもしれない。

1779年(安永8年)

加藤弥三之丞重賢も西戸崎に松を植える。

金印の発見 1784年(天明4年)

「漢委奴国王」の金印が志賀島より発見

明治維新 1863年(文久3年)

西戸崎に異国船打ち払いのための砲台場建設

博多湾鉄道の開通 1904年(明治37年)

博多湾鉄道(株)西戸崎～須恵間開通(翌年宇美までが開通)粕屋炭田、志免炭田からの石炭の積出港として栄えることとなった。1943年(昭和18年)国鉄が買収して香椎線となった。

日本で初めての製油所 1909年(明治42年)

日本で初めての製油所であるライジングサン石油稼働開始。その後米軍石油廠を経て、シェル石油へ(現在は経営統合し出光興産株式会社)。

雁ノ巣飛行場 1936年(昭和11年)

雁ノ巣に国際飛行場が建設された。京城、大連、上海、台北へ向かう羽田に次ぐ2番目の規模(76ha)を誇る国際飛行場であり、2本の滑走路(1700m、1300m)があった。

西戸崎炭坑開坑 1937年(昭和12年)

西戸崎炭坑開坑。石炭積出港、炭坑と続き、西戸崎地区は栄えることとなる(昭和30年の8,688人がピーク)。1963年(昭和38年)閉山。(閉山の後、西戸崎開発(株)となり、西戸崎ゴルフ場、マリーナなどを現在も経営)

博多海軍航空隊創設 1940年（昭和15年）

海の中道に博多海軍航空隊創設。初期は、水上飛行艇が飛ばされていたが、その後普通飛行機も飛び立つようになった。同時期に渡辺鉄工株式会社が海軍の御用達として組立工場及び試験場を設置するため広大な土地を買収して飛行場となった。

米軍駐留 1945年（昭和20年）

米軍、海軍航空隊跡に駐留「キャンプ博多」と称す。

米軍 640 部隊、及び特殊電波関係部隊が駐留。朝鮮戦争当時は第一線の米空軍基地として使用され、航空機の大型化、ジェット化により飛行場としての価値が薄れてからは無線基地となった。無数の鉄塔(アンテナ)が建ち、その間の土地がゴルフ場に使用された。現在の都市計画道路の博多湾側(現在リゾートエリアになっている)に司令部隊の中核があり、道路から北側の現在野外劇場、サンシャインプールとなっている部分に将校宿舍等があった。

福岡市との合併 1960年（昭和35年）




和白町、福岡市と合併

米軍基地返還 1972年（昭和47年）








米軍撤収

(2) 米軍基地返還から現在まで

1971（昭和46）～1980（昭和55）年

年度	～1971 ～S46	1972 S47	1973 S48	1974 S49	1975 S50	1976 S51	1977 S52	1978 S53	1979 S54	1980 S55	
社会の出来事		<ul style="list-style-type: none"> ●パンダ2頭が上野動物園に来日 ●日本列島改造論 	<ul style="list-style-type: none"> ●オイルショック 		<ul style="list-style-type: none"> ●「およげたいやきくん」が大ヒット 	<ul style="list-style-type: none"> ●都市公園法改正（国営公園制度創設） 		<ul style="list-style-type: none"> ●成田空港開港 		<ul style="list-style-type: none"> ●第二次オイルショック 	
公園に関する出来事		<ul style="list-style-type: none"> ●米軍博多基地返還 	<ul style="list-style-type: none"> ●雁ノ巣公園建設連絡協議会発足 	<ul style="list-style-type: none"> ●国営公園建設連絡協議会発足 ●国営公園建設連絡協議会において大規模公園用地としての利用計画を了承 	<ul style="list-style-type: none"> ●海の中道海浜公園基本設計 	<ul style="list-style-type: none"> ●「海の中道海浜公園」都市計画決定 	<ul style="list-style-type: none"> ●国営公園の区域決定、工事着手 	 <p>1975年（S50年）撮影（C地区付近）</p>			
	 <p>1964年（S39年）撮影（米軍博多基地時代）</p>					 <p>1976（S51）.3 基本設計より</p>					

1981 (昭和 56) ~1990 (平成 2) 年

年度	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990
	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2
社会の出来事			●東京ディズニーランド開園	●日本の総人口が1億2000万人に	●つくば万博開催			●よかとぴア(アジア太平洋博覧会)開催		●スペースワールド開園
公園に関係する出来事	●供用開始(西口広場、大芝生広場、動物の森) 〔供用施設等〕		●サンシャインプール子どもの広場 野鳥の森	●観覧車	●観覧車		●ホテル海の中道	●マリンワールド海の中道(第一期)、青少年の家		●マリンワールド海の中道
										
	1981年(S56年)撮影(C地区付近)		サンシャインプール	観覧車	観覧車		ホテル海の中道	マリンワールド海の中道		1981(S56)年度時点の開園区域(58.7ha) (当初開園区域) 1990(H2)年度時点の開園区域(156.3ha)






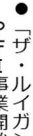

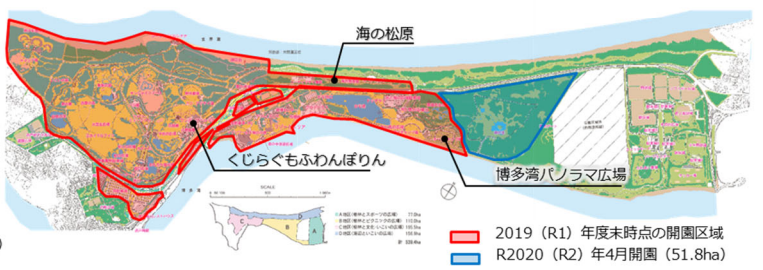
1991 (平成 3) ~2000 (平成 12) 年

年度	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12
社会の出来事	●八木ステテンボス開園 ●お立ち台テイスコ ●ジュリアアナ東京オープン		●環境基本法 ●博多港国際ターミナル開設 ●福岡ドーム完成	●地下鉄サリン事件 ●阪神・淡路大震災 ●アイランドシティ事業開始		●大阪ドーム、ナゴヤドーム完成	●環境影響評価法		●PFI法施行	●JCIオープン ●循環型社会形成推進基本法
公園に関係する出来事	●野外劇場、シーサイドヒルシオヤ 〔供用施設等〕	●バラ園				●マリンワールド海の中道(第二期)	●彫刻の森、四季の森	●森の家 ●スカイドルフィン		
										
	1995年(H7年)撮影					マリンワールド	彫刻の森、四季の森	スカイドルフィン	森の家	2000(H12)年度時点の開園区域(205.5ha)

2001（平成13）～2010（平成22）年

年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	
	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	
社会の出来事	●東京ディズニーシーオープン		●六本木ヒルズ完成	●福岡県西方沖地震 ●景観緑三法	●第22回全国都市緑化ふくおかフェア	●観光立国推進基本法 ●バリアフリー新法		●iPhone日本発売 ●リーマンショック ●生物多様性基本法	●政権交代（自民↓民主）	●大濠公園にスターバックスコヒーロープラン	●東日本大震災
公園に関する出来事	●B地区光と風の広場、デイキャンプ場 【供用施設等】	●デイキャンプ場	●フラワーミュージアム	●D地区潮見台エリア	●潮見台	●ザ・ルイガンズ、*ザ・ルイガンズ、HPより引用	●ホテル海の中道が「ザ・ルイガンズ」としてリニューアル ●花の丘	●環境共生の森	●海の松原	●海の松原	
											
											2010（H22）年度時点の開園区域（264.7ha）

2011（平成23）～2020（令和2）年

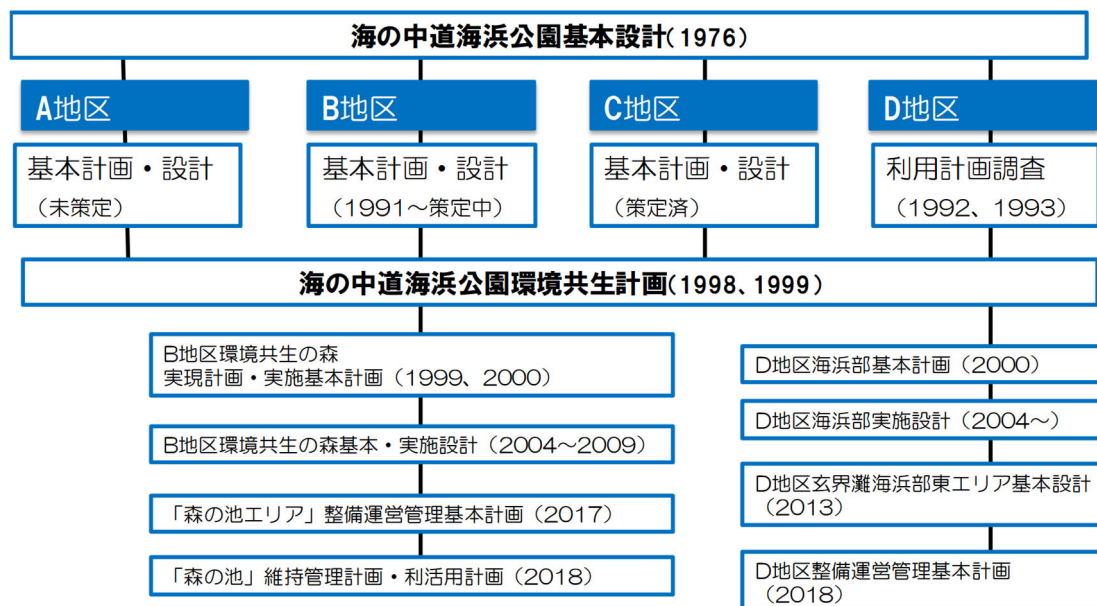
年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
社会の出来事		●東京スカイツリー完成				●熊本地震	●都市公園法改正	●スペースワールド閉園		●東京オリンピック
公園に関する出来事	●くじらぐもふわんぼりん 【供用施設等】	●くじらぐもふわんぼりん			●観覧車営業終了	●博多湾パノラマ広場 ●マリノワールド海の中道PFI事業開始	●博多湾パノラマ広場	●「ザ・ルイガンズ」等PFI事業開始	●森の池開園	
										
										2019（R1）年度未時点の開園区域 2020（R2）年4月開園（51.8ha）

資料2 これまでの計画・設計

(1) 計画・設計の経緯

本公園の計画・設計は、1976年（昭和51年）の基本設計で全体の計画・設計を行い、その後順次エリア毎の計画・設計を行う形で進めてきた。

基本設計後の公園全体に係る計画として、1998年、1999年（平成10年、11年）に「海の中道海浜公園環境共生計画」を策定している。



(2) 1976 (S51) .3 海の中道海浜公園基本設計の概要

○基本理念 ※要約

基礎条件：“海の中道”の歴史的形成過程とその進化の方向性と自然生態的段階の認識

テーマ：海の中道の自然体系と21世紀へ向けての文化・レクリエーション展望の共生環境の創造

目標1：高度な生態的段階の環境を創出すること

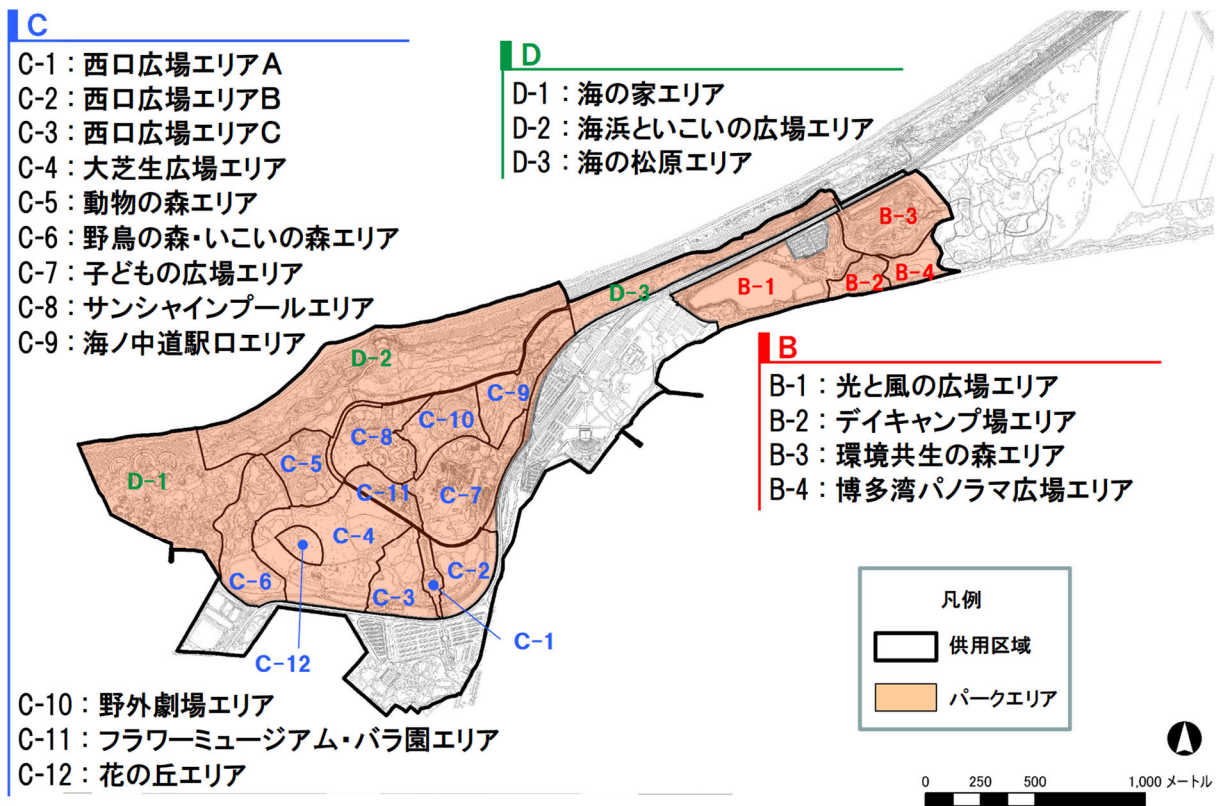
目標2：循環的かつ長期的に需要を喚起しうる内容と質を確保すること

○基本方針 ※要約

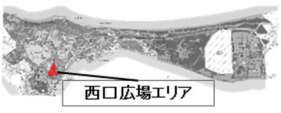

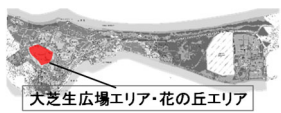



a.社会条件 に対して	<ul style="list-style-type: none"> ○福岡市のレクリエーション大拠点、北部九州圏域の広域緑地系統の一環として位置付け。即ち、日帰り利用を主体としながらも、既存施設を活用した宿泊利用も考慮。 ○隣接、近隣地域への本公園建設が与える影響を十分検討して、共存関係が成立するための条件に配慮しながら計画策定を進める。
b.自然条件 に対して	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな造成に当たっては、既存の植生、地質、土壌条件等を十分考慮する。 ○全域が地表を除いて砂地である為、土壌改良又は土壌置換を行う事により植栽に適した土壌条件をつくる。 ○臨海性の植生を改善し二次林の形成を促進しつつ、緑地帯を拡大発展させる。 ○淡水と塩水の自然的バランスを破壊しないように池の造成を考慮する。
c.計画条件 について	<ul style="list-style-type: none"> ○スケールメリットを生かし自然公園的な性格をベースに通年利用可能な計画とする。 ○利用需要の多い夏季の海岸レクリエーション利用に対しては特別に考慮。ただし海岸線の現状保全を前提とし、一部浸蝕防止対策を行う。 ○北から吹く潮風の防風処置を植栽や盛土により講じる。 ○限界利用者に対して利用抵抗を小さく各年齢層の人々が平等に楽しめる企画を立案。 ○池の造成の切盛は整合させる。池は自然な地下水位の変動に対応するものとする。

資料3 各エリアの整備状況（パークエリア）

(1) エリア区分



(2) 整備状況

エリア	整備状況
<p>①C1～C3 西口広場エリア</p>  <p>西口広場エリア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○当初開園時から供用している公園のメインエントランスエリア。 ○当初レストランだった水辺の広場レストハウスは、1994年（平成6年）から無料休憩所として利用。  <p>カナール 水辺のレストハウス</p>
<p>②C-4 大芝生広場エリア、C-12 花の丘エリア</p>  <p>大芝生広場エリア・花の丘エリア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○当初開園時から供用している本公園で最も広大な広場空間を有するエリア。1990年（平成2年）にレストハウスを整備、1999年（平成11年）にUDに対応した大型複合遊具の新設を行っている。 ○2007年（平成19年）に大規模花修景を展開できる花の丘を整備。  <p>大芝生広場レストハウス 花の丘</p>
<p>③C-5 動物の森エリア</p>  <p>動物の森エリア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○当初開園時から供用している、動物を身近に観察し、触れあえるエリア。 ○継続的に動物舎の増設・改修等を実施。  <p>ふれあい動物舎 動物餌やり体験</p>

エリア	整備状況
<p>④C-6 野鳥の森・いこいの森エリア</p>  <p>野鳥の森・いこいの森エリア</p>	<p>○池や松林等の自然を主体としたエリア。段階的に供用区域を拡大。 ○1999年（平成11年）に森の家を整備し、自然体験の拠点として様々なプログラムを実施。</p>  <p>松林保全の取り組み</p>  <p>森の家の製作体験</p>
<p>⑤C-7 子どもの広場エリア</p>  <p>子どもの広場エリア</p>	<p>○子供が遊べる遊具が充実したエリア。 ○有料施設である観覧車やジェットコースター等は2008年（平成20年）以降順次撤去。2011年度（平成23年度）から無料遊具を主体としたエリアにリニューアル。</p>  <p>大観覧車</p>  <p>くじらぐもふわんぼりん</p>
<p>⑥C-8 サンシャインプールエリア</p>  <p>サンシャインプールエリア</p>	<p>○1983年（S58年）からオープン。施設の老朽化、陳腐化等から2003年度（平成15年度）に一部施設のリニューアルを実施。 ○リニューアル後は利用者が回復。パークエリア入園者の2～3割を占める。</p>  <p>ウォータージャングル</p>  <p>ドラゴンライダー</p>
<p>⑦C-9 海の中道口エリア、 C-10 野外劇場エリア</p>  <p>海中道口エリア</p>	<p>○1987年（昭和62年）海の中道駅の現位置への移転に伴い、1989年度（平成元年度）に駅に近い場所にゲートを設置。 ○1991年（平成3年）に野外劇場を整備。毎年野外コンサート等の大規模イベントに活用されている。</p>  <p>海の中道口ゲート</p>  <p>野外劇場</p>
<p>⑧C-11 フラワーミュージアム、 バラ園エリア</p>  <p>フラワーミュージアム・バラ園エリア</p>	<p>○花修景施設として、1991年（平成3年）にワイルドフラワーガーデン、1993年（平成5年）バラ園を整備。 ○2004年（平成16年）にワイルドフラワーガーデンを「屋根のない美術館」をイメージしたフラワーミュージアムにリニューアル。</p>  <p>バラ園</p>  <p>フラワーミュージアム</p>
<p>⑨ D地区</p>  <p>D地区</p>	<p>○海浜植生の保全、再生に重点的に取り組んでいるエリアであり、海浜部は立ち入りを制限。 ○1989年（平成元年）に福岡市の青少年教育施設である青少年海の家、1991年（平成3年）にシーサイドヒルシオヤを供用。 ○2011年度（平成23年度）には、B地区へのアクセス路としてJRの線路・県道を跨ぐうみなかみらい橋を整備。</p>  <p>青少年海の家</p>  <p>うみなかみらい橋</p>
<p>⑩ B地区</p>  <p>B地区</p>	<p>○2002年（平成14年）から供用を開始した自然の中でのレクリエーションを主体としたエリア。 ○2010年（平成22年）に市民での森づくりを行う環境共生の森、2017年（平成29年）に博多湾パノラマ広場を供用。 ○2020年（令和2年）4月に森の池エリア供用開始。</p>  <p>デイキャンプ場</p>  <p>博多湾パノラマ広場</p>

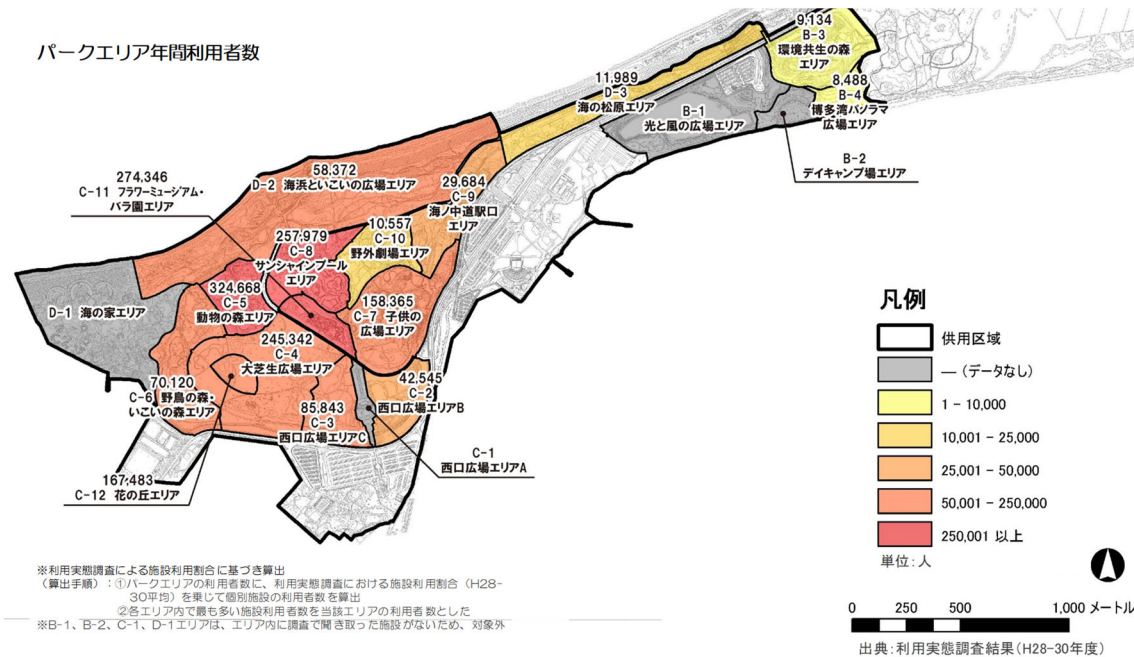
資料4 各エリアの利用状況

(1) 利用者数（日常利用）

○利用実態調査の結果を基に、エリア毎の日常利用の多寡の傾向把握を行った。

○C 地区は、動物の森、プール、フラワーミュージアムあたりに利用が集中している一方、野外劇場エリア、海の中道口エリア、西口広場エリア B は比較的用户数が少ない

○B 地区・D 地区は、C 地区に比して利用者が少ない。

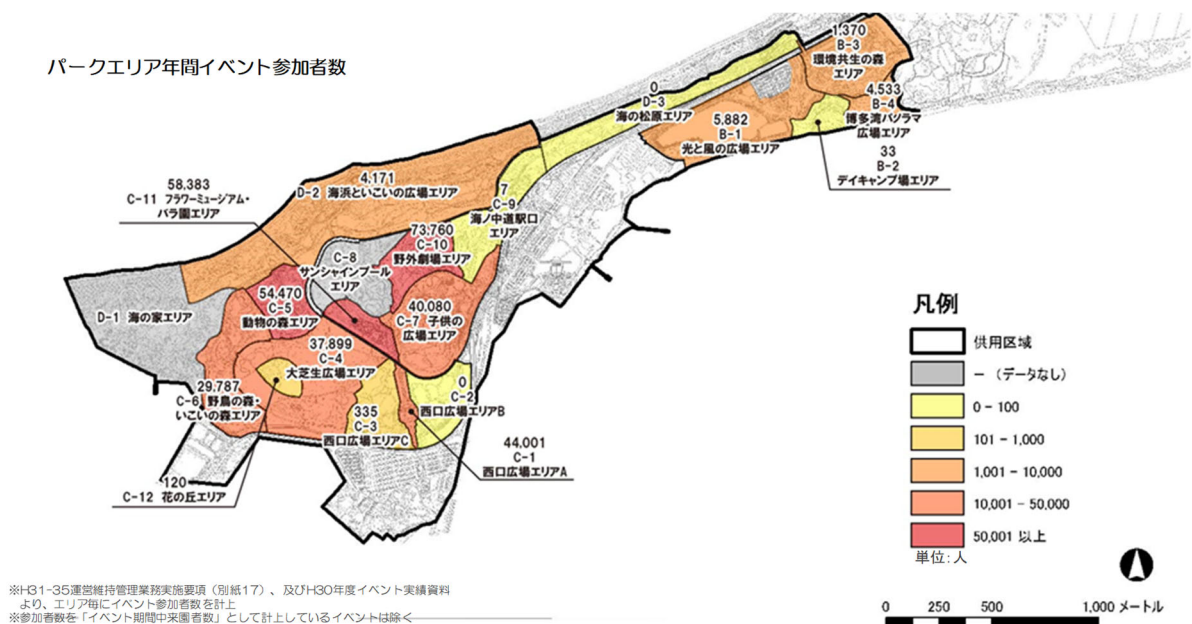


(2) イベント参加者数（イベント利用）

○過去3年間のイベント参加者数を基に、エリア毎のイベント利用の多寡の傾向把握を行った。

○C 地区は、野外劇場が最もイベント参加者数が多く、海の中道口エリア、西口広場エリア B が極めて少ない。(データなしのサンシャインプール、海の家エリアを除く)

○B 地区・D 地区は、C 地区に比してイベント利用者数も少ない。



出典: H31-35運営維持管理業務実施要項(別紙17)
イベント実績資料(H30年度)

(3) まとめ

○日常でも、イベント時でも利用者が多いエリアは、C-5 動物の森エリア、C-11 フラワーミュージアムエリアなど。

○B 地区・D 地区はC 地区に比して日常利用・イベント利用も少ない。また、C 地区の中でもC-9 海の中道駅エリア、C-2 西口広場エリアB は日常利用・イベント利用とも少ない。

エリア別年間利用者数・イベント参加者数（2016（H28）～2018（H30）年度平均） 順位

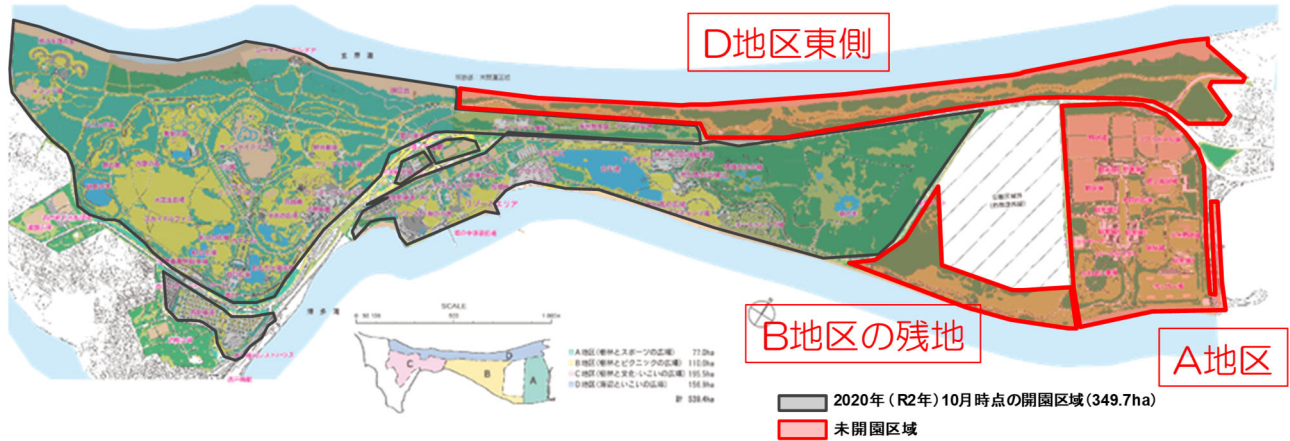
順位	利用者数		順位	イベント参加者数	
	エリア	利用者数 (人/年)		エリア	参加者数 (人/年)
1	C-5動物の森エリア	324,668	1	C-10野外劇場エリア	73,760
2	C-11フラワーミュージアム・バラ園エリア	274,346	2	C-11フラワーミュージアム・バラ園エリア	58,383
3	C-8サンシャインプールエリア	257,979	3	C-5動物の森エリア	54,470
4	C-4大芝生広場エリア	245,342	4	C-1西口広場エリアA	44,001
5	C-12花の丘エリア	167,483	5	C-7子どもの広場エリア	40,080
6	C-7子どもの広場エリア	158,365	6	C-4大芝生広場エリア	37,899
7	C-3西口広場エリアC	85,843	7	C-6野鳥の森・いこいの森エリア	29,787
8	C-6野鳥の森・いこいの森エリア	70,120	8	B-1光と風の広場エリア	5,882
9	D-2海浜といこいの広場エリア	58,372	9	B-4博多湾パノラマ広場エリア	4,533
10	C-2西口広場エリアB	42,545	10	D-2海浜といこいの広場エリア	4,171
11	C-9海ノ中道駅エリア	29,684	11	B-3環境共生の森エリア	1,370
12	D-3海の松原エリア	11,989	12	C-3西口広場エリアC	335
13	C-10野外劇場エリア	10,557	13	C-12花の丘エリア	120
14	B-3環境共生の森エリア	9,134	14	B-2デイキャンプ場エリア	33
15	B-4博多湾パノラマ広場エリア	8,488	15	C-9海ノ中道駅エリア	7
—	B-1光と風の広場エリア	データなし	16	C-2西口広場エリアB	0
	B-2デイキャンプ場エリア		D-3海の松原エリア	0	
	C-1西口広場エリアA		C-8サンシャインプールエリア	データなし	
	D-1海の家エリア		D-1海の家エリア		

※利用実態調査による施設利用割合に基づき算出
 (算出手順)：①パークエリアの利用者数に、利用実態調査における施設利用割合(2016～2018平均)を乗じて個別施設の利用者数を算出
 ②各エリア内で最も多い施設利用者数を当該エリアの利用者数とした
 ※B-1、B-2、C-1、D-1エリアは、エリア内に調査で聞き取った施設がないため、対象外

※H31-35運営維持管理業務実施要項(別紙17)、及び2018年度イベント実績資料より、エリア毎にイベント参加者数を計上
 ※参加者数を「イベント期間中來園者数」として計上しているイベントは除く

資料5 未開園区域の現状

2020年（令和2年）4月に森の池エリアが開園し、未開園区域はA地区、B地区の残地、D地区東側となっている。



(1) A地区（雁の巣レクリエーションセンター）

○雁の巣レクリエーションセンター（雁レク）は、1970年（昭和45年）に一部返還された米軍博多基地の一部を福岡市が旧大蔵省から使用承認を受け、1971年（昭和46年）に開園。

○後に返還された基地跡地と一体的に国営海の中道海浜公園の区域として都市計画決定。現在も福岡市が条例に基づいて設置、管理を行っている。

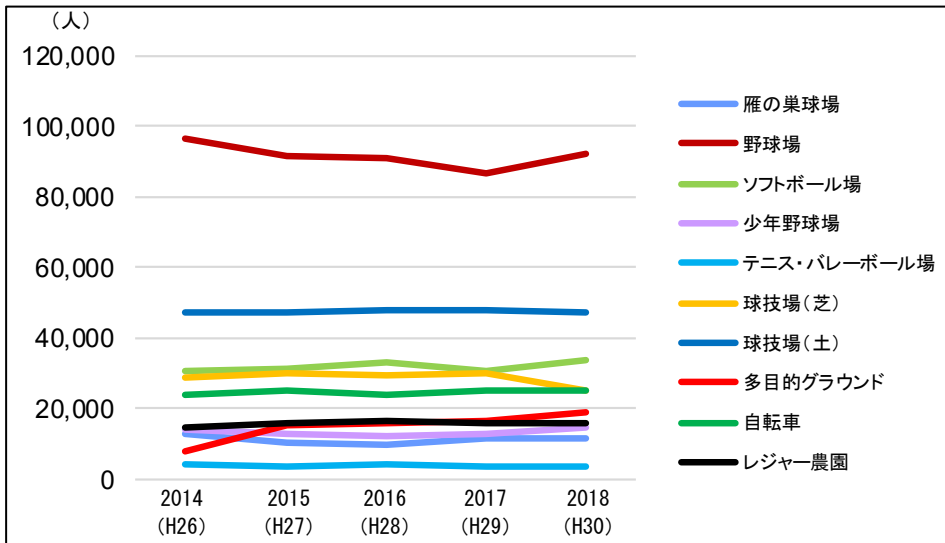
雁の巣レクリエーションセンターの経緯

年度	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977～
	S43	S44	S45	S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52～
公園の出来事	<p>1964年撮影(米軍博多基地時代)</p>			● 米軍博多基地返還	● 雁ノ巣公園建設連絡協議会発足	● 雁ノ巣公園建設連絡協議会発足	● 雁ノ巣公園建設連絡協議会発足	● 海の中道海浜公園基本設計 ● 「海の中道海浜公園」都市計画決定	● 国営公園の区域決定、工事着手	● 国営公園の区域決定、工事着手
雁の巣レクリエーションセンターの出来事	<p>1969年撮影</p>			● 福岡市・大蔵省 雁ノ巣地域の米軍飛行場の一時使用許可申請	● 米軍博多基地一部返還 ● 大蔵省・福岡市 使用承認	● 雁の巣レクリエーションセンター開園	● 福岡市雁の巣レクリエーションセンター条例	<p>1975年撮影</p>	● 基本設計で雁レクは各種運動施設を集約整備したゾーンとして位置づけ ● 雁レクも都市計画決定区域に	● 国営公園を設置すべき区域として決定、告示(法第33条)

雁の巣レクリエーションセンターの利用者数

単位:人

2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)
453,716	505,086	530,075	494,037	480,907	488,058



施設別利用者数



球技場



イベント状況 (サマーキャンプ in 雁の巣)



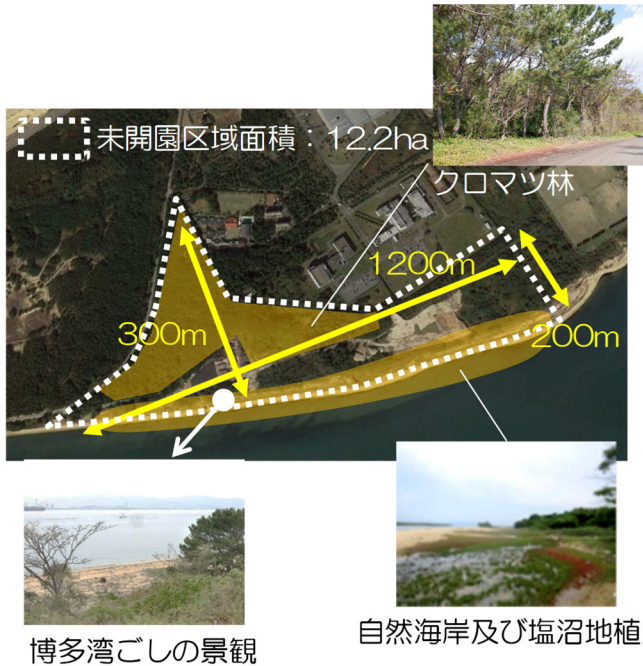
施設位置図

(2) B地区

OB地区の森の池エリアとA地区の間の約12.2haのエリアが未開園区域。

○エリア内にはクロマツ林が分布。A地区から連続する海岸線は、公園内の博多湾側で唯一自然海岸が残り、穏やかな海に面した砂浜が広がっている。

○環境の保全と海浜レクリエーションの活用を両立させることを基本として、今後整備内容の具体化を行う予定。



博多湾エコパークゾーンゾーニング
出典：エコパークゾーン ガイドブック（福岡市港湾空港局みなと環境政策課）



「ウェットランドフォーラム」や「和白干潟を守る会」といった保全活動団体により渡り鳥の住処である和白干潟の保全活動が行われている。

干潟保全活動の様子（ウェットランドフォーラムホームページより）



①C地区方向



②アイランドシティ方向



③海の中道大橋方向



④A地区方向



⑤航空管制方向



⑥エリア西側

(3) D 地区

OD 地区は、玄界灘に沿った砂丘とクロマツ林からなる帯状のエリアであり、東側の約 98.7ha のエリアが未開園区域。



○飛砂等によるマツ林の後退を防ぐため、これまでもクロマツの植栽等を実施しているが、既存のマツ林の後退や砂に埋もれた植栽箇所もあり、厳しい環境の中でのマツ林の保全再生が必要。

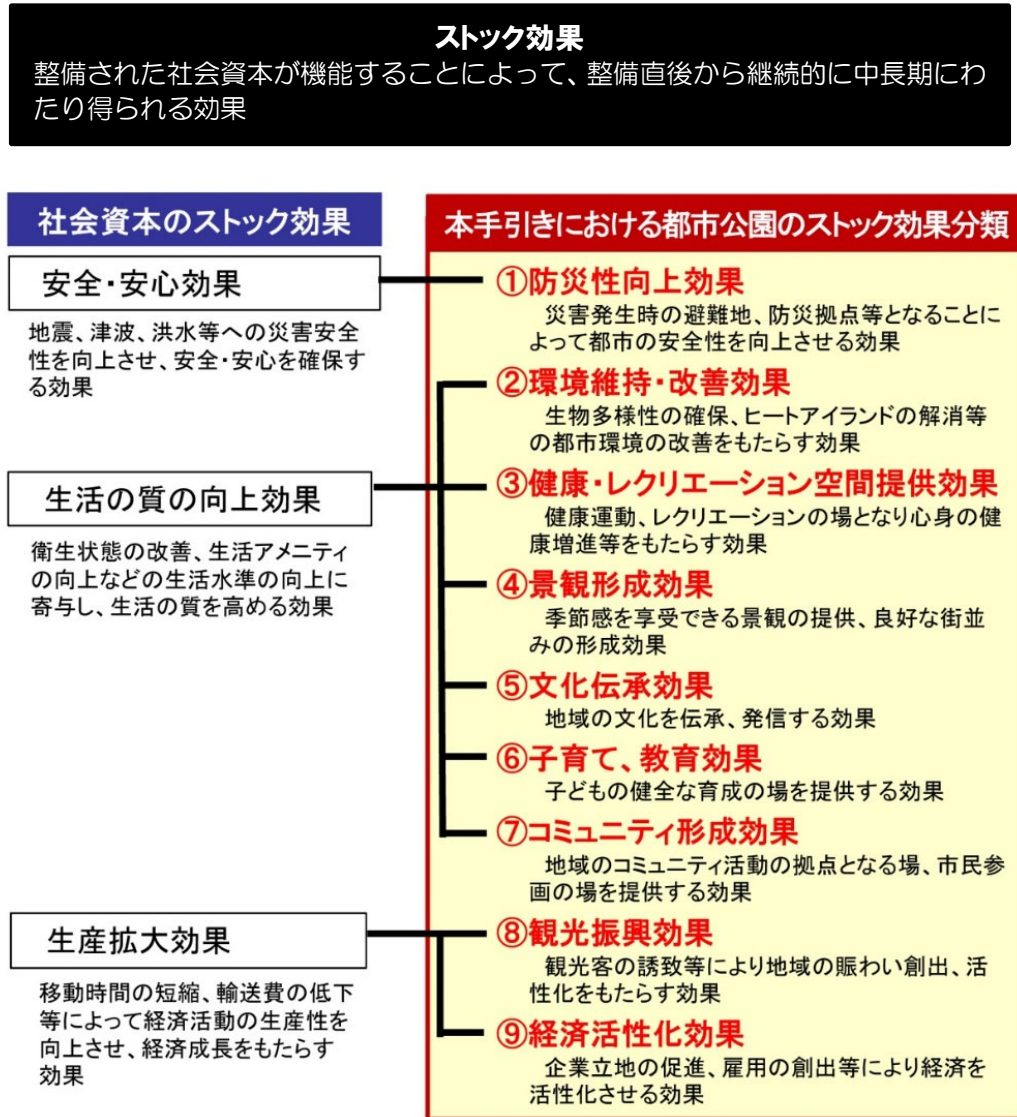


植栽地の状況

資料6 公園整備・管理運営によるストック効果

○本公園のこれまでの公園整備・管理運営で発現したストック効果を示す。

○都市公園のストック効果は、以下9つの効果に分類・整理される。以降、分類ごとに効果の内容を示す。



※それぞれの効果は相互に関連しており、厳密に分けられるものではない

防災

地震等の発生時に約15万人(※)が避難できる避難地を確保

(※) 約15万人=307,500㎡(避難場所面積)÷2㎡/人(広域避難地の有効避難単位面積)

※出典「防災公園の計画・設計に関するガイドライン(案)(平成27年9月改訂版)」

○公園内の広場や駐車場が福岡市の地区避難場所、広域避難場所に指定されており、地震等の災害時に避難者を受け入れ可能。

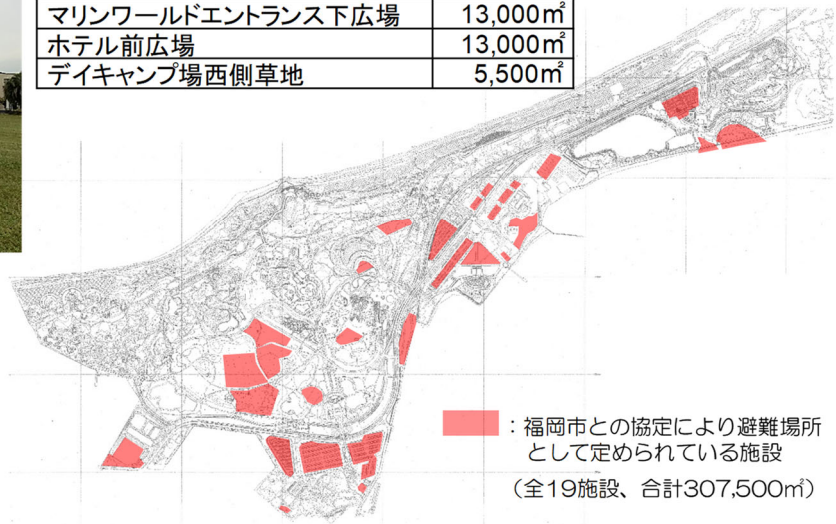
●避難場所の例



(ホテル前広場)

●主な避難場所

対象施設名	面積
西戸崎グラウンド	16,000㎡
マリンワールドエントランス下広場	13,000㎡
ホテル前広場	13,000㎡
デイキャンプ場西側草地	5,500㎡



環境

新たに10ha(サッカー場10面分(※))以上の緑を創出

○開園以来、D地区の松の植林やB地区における新たな森づくり等の自然環境の保全・創出に取り組んでおり、少なくとも約11.7haの緑地が新たに創出された。

D地区のマツ林の植栽効果



開園当初の青少年海の家付近(1981年(S56年))



計画的なマツの植栽(青少年海の家上空写真)

概ね3.4haの緑を新たに創出



青少年海の家付近(2020年(R2年)3月)

B地区の森づくりの効果



開園当初の環境共生の森付近(1981年(S56年))



植樹の様子



概ね8.3haの緑を新たに創出

環境共生の森付近(2020年(R2年)3月)

レクリエーション

年間200万人以上が訪れる広域レクリエーション拠点を創出

○時代に応じて多様な魅力を提供することで、福岡市を代表するレクリエーション拠点として定着。県内・県外から広域的に利用される施設となっている。



フラワーミュージアム

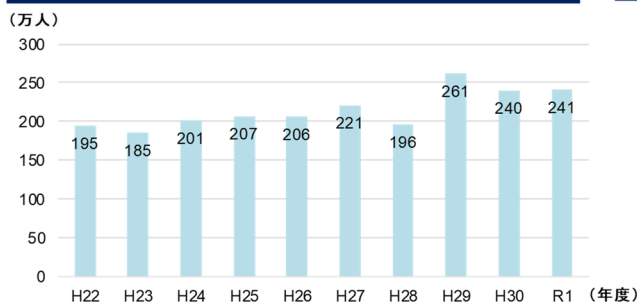


サンシャインプール

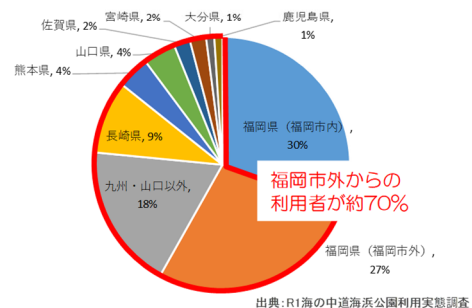


大芝生広場

過去10年間の入園者数の推移



公園利用者の居住地割合(2019年度(R1年度))



景観文化

「日本の白砂青松100選(※)」に選ばれる松原を保全・育成

(※) (社)日本の松の緑を守る会が選定した100ヶ所の日本の景勝地

○クロマツ林を保全・育成し、海の中道固有の白砂青松の景観を保全。本公園区域を含む海の中道の松原が「日本の白砂青松100選」に選定されている。



クロマツ林育成の取組



▲樹幹注入の様子



▲機械による薬剤散布



▲人力による薬剤散布



▲密度管理のための間伐

子育て 年間76万人(福岡県内の子供の人口以上(※))の子供が遊び、学ぶ場

(※) 福岡県のこども人口(15歳未満の人口) 推計値: 669,394人(2019年(平成31年)年4月)をもとに算出

○豊かな自然と広大な敷地を活かした様々な遊具や多様な環境学習プログラムを提供。子供たちが自然豊かな環境の中で遊び、学べる場となっている。



子供の広場

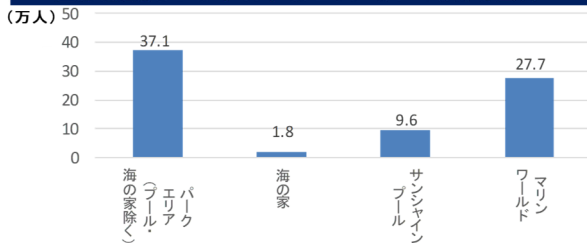


工作体験(森の家)



カッター教室(海の家)

主要施設の子供(中学生以下)の利用者数



【主要施設の子供の利用者数(2019年度(R1年度))】

※マリンワールドは年間バス利用者を除く

青少年海の家(教育施設)



- ・福岡市が運営する青少年教育施設
- ・2019年度(R1年度)活動参加学校数: 171校

※参考: 福岡市内の小学校数: 149校
中学校数: 82校(2019年(R1年).5.1現在)

コミュニティ

年間(※)を通じてボランティアが活躍している公園

(※) ボランティア等の2019年度(R1年度)活動回数: 324回

○様々なボランティア団体や個人ボランティアが、森の育成やイベントのサポート等に参画。学校や企業等の団体の社会貢献の場、地域住民同士の交流の場としても機能。



講習会の実施(ディスクゴルフボランティア)



チューリップの植え付けボランティア



キャンドルナイトボランティア

●登録ボランティアの活動実績(2019年度(R1年度))

ボランティア名(登録者数)	延べ活動人数	活動回数
海の中道フラワーボランティア(34名)	268名	36回
パラフレズ(21名)	89名	29回
海の中道サポートクラブ(38名)	349名	44回
動物の森ZOOボランティア(22名)	136名	52回
環境共生の森サポートボランティア(38名)	689名	76回
野鳥ボランティア(4名)	19名	10回
紙ヒコーキボランティア(8名)	10名	3回
ディスクゴルフボランティア(22名)	121名	21回
公園見守り隊(6名)	25名	10回
合計	1,076名	281回

●市民活動の活動実績(2019年度(R1年度))

ボランティア名	延べ活動人数	活動回数
ファミリーボランティア	542名	10回
プチボランティア	162名	13回
企業・団体等ボランティア	2,052名	20回
合計	2,756名	43回

観光

福岡市No.1(※)の観光地

(※) トリップアドバイザー 福岡市の観光スポットランキング第1位

○福岡市を代表する観光地として、外国人を含む多くの観光客が訪れる。(2019年度(R1年度)の外国人入園者数:約9万人。対2018年度(H30年度)比約130%)



福岡市の観光スポットで第1位

「福岡市の観光スポット」人気ランキング

順位	施設名
1位	海の中道海浜公園
2位	マリンワールド海の中道
3位	博多駅
4位	能古島
5位	大濠公園

データ出典: トリップアドバイザー (2020年(令和2年)2月10日時点)

人気ランキング: このランキングは、トリップアドバイザーの口コミの質、量、および投稿時期により計算された人気度に基づき施設やスポットを比較したものです。人気ランキングは特定のエリア内の類似する施設をランク付けし、旅行者に相対的な人気度を提示します。トリップアドバイザーの人気ランキングは通常週に1度更新されます。

(トリップアドバイザー ヘルプセンターページより抜粋)

外国人観光客の高い関心

福岡市の公式観光サイト「よかなび」のスポット情報閲覧ランキングにおいて、英語、中国語とも本公園が上位の閲覧数

順位	日本語	英語	韓国語	中国語(繁体字)	中国語(簡体字)
1位	このしまアイランドパーク	海の中道海浜公園	キャナルシティ博多	海の中道海浜公園	海の中道海浜公園
2位	海の中道海浜公園	天神地下街	シーサイドもち海浜公園	櫛田神社	太宰府天満宮
3位	博多デイトス	櫛田神社	太宰府天満宮	舞鶴公園	天神地下街

出典: 「福岡市の観光・MICE」2020年版(表は2019年(R1年)の閲覧数)

活力

全国から人が集まるイベントの開催で地域経済を活性化

○野外コンサートや福岡国際クロスカントリー大会などの全国から集客を期待できる大型イベントの開催により、地域経済の活性化に貢献。



NUMBER SHOT

- ・毎年夏に行われる九州を代表する大規模野外音楽フェスティバル

(参加者数:34,081人※2019年(R1年))



福岡国際クロスカントリー大会

- ・毎年2月に行われる日本陸上競技選手権大会の種目
- ・全国はもとより、外国人選手も招待される

(参加者数:6,821人※2018年(H30年))

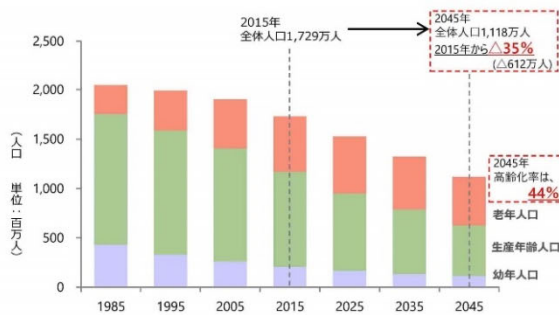
資料7 社会情勢の変化

(1) 地域社会の変化

- 地方圏を中心に全国的に人口の減少・高齢化が進んでおり、地方圏から東京圏への流出が続くなど、人口の地域的偏在が進行。
- 一方で、三大都市圏の居住者の間では、居住地域以外との交流の動きが見られ、地域の潜在力を発揮する新たな機会に。

■ 人口の減少・高齢化の進行

- 我が国全体において、2045年には、2015年から**総人口が16%減少**し、**高齢化率が37%**に達する見込み。
 - 5万人クラスの都市では、2045年に**全体人口が35%減少**し、**高齢化率は44%**に達するなど、**地方圏での人口減少・高齢化は顕著**。
- ※ 2050年には、全国の居住地域の約51%（面積ベース）で、人口が2015年から半数以上減少する見込み。



【5万人クラス都市の人口の推移】

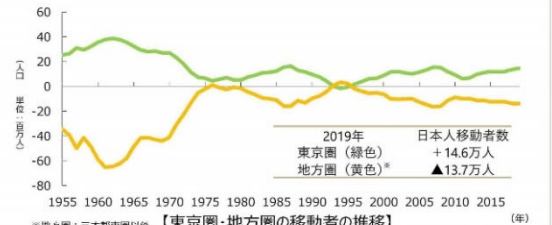
※「5万人クラス都市」=三大都市圏、南庁所在地都市を除く、人口5万人未満の市町村

(注)福島県は県全体の推計しか行われていないため、集計の対象外とした。

(出典) 2005年までは総務省統計局「国勢調査報告」、2015年は総務省統計局「平成27年国勢調査人口等基本集計」、将来の推計値は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成30年推計)より作成

■ 人口の地域的偏在の進行

- **東京圏への人口流入**が続く一方、**地方圏からは継続的に流出**。



【東京圏・地方圏の移動者の推移】

(出典) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」より作成

■ 居住地域以外との交流

- 三大都市圏の18歳以上のうち、**約2割強(約1,080万人)**が**日常生活圏、通勤圏以外の地域と定期的・継続的な関わり**があり、かつ、**訪問**。
- リニア中央新幹線の開通により、**三大都市圏から片道4時間以内に到達可能な都市が増加**する見込み。(95→112県庁所在地(三大都市圏全体))



【三大都市圏から片道4時間で到達可能な47都道府県の県庁所在地数】

出典：社会資本整備審議会 第44回計画部会(2020(R2).4.30)資料

(2) 経済状況の変化

- 北東・東南アジアの経済活動は拡大しており、アジア諸国の急速な成長等により、国際競争はますます激化。
- 国内の生産年齢人口が減少する中、周辺諸国の経済成長の取り込みは、日本にとってより重要に。

■ 北東・東南アジアの経済活動の拡大

- **北東・東南アジアの域内貿易**は1990年以降**約8.1倍に拡大**するとともに、**域外との貿易活動も大幅に拡大**。



【北東・東南アジアと各地域の貿易額の推移】

(出典) JETRO「世界貿易マトリクス」より作成

■ 生産年齢人口の減少

- 今後の30年間で、**生産年齢人口が約28%減少**する見込み。

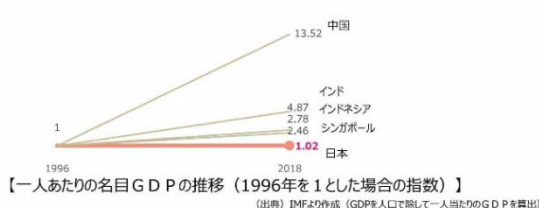


【我が国の生産年齢人口の推移】

(出典) 総務省「人口統計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」より作成

■ 周辺諸国との競争の激化

- 1996年以降、一人あたり名目GDPは概ね変化しておらず、順位は**3位から26位に後退**。この間、**アジア諸国は急速に成長**。



【一人あたりの名目GDPの推移(1996年を1とした場合の指数)】

(出典) IMFより作成。(GDPを人口で割って一人当たりのGDPを算出)

■ 訪日観光需要の拡大

- **訪日外国人旅行者数は**、2012年からの7年間で**約3.8倍に増加**。



【訪日外国人旅行者の推移】

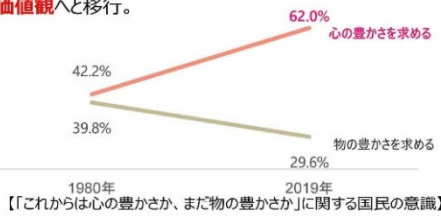
出典：社会資本整備審議会 第44回計画部会(2020(R2).4.30)資料

(3) ライフスタイルの多様化

- 国民のライフスタイルや意識・価値観の変化を踏まえ、自然との調和や人々が安心して生活・移動できる優しい社会の実現が重要に。
- 持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現は国際的にも重要に。

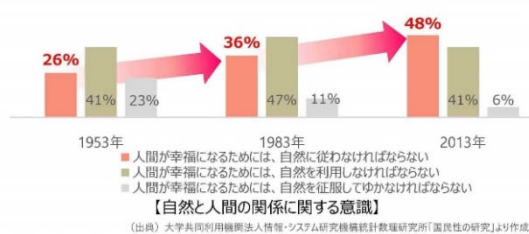
■ 国民の意識・価値観の変化

- 直近の数十年間に、物の豊かさを求める価値観から、**心の豊かさを求める価値観**へと移行。



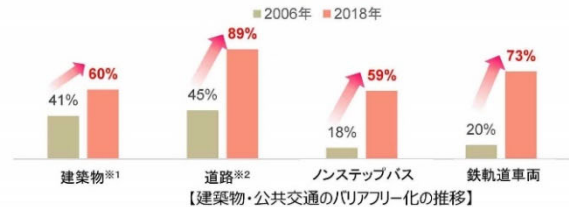
■ 自然との調和への関心の拡大

- 数十年前に比べ、自然を征服・利用するのではなく、**自然に従うべき**とする価値観が拡大。



■ 公共空間におけるバリアフリー化

- この数十年間に公共空間での**バリアフリー化が大きく進展**。



■ 持続可能・多様・包摂的な社会に向けた国際的な議論

- 「SDGs」の理念を踏まえ、**持続可能で多様性と包摂性のある社会**の実現に向けた取組が全世界的に加速。
- インフラ分野では、**目標9（強靭なインフラ構築等）**、**目標11（持続可能な都市の実現）**の取組として、防災・減災、国土強靭化の推進やコンパクト・プラス・ネットワークやグリーンインフラの推進等が関係。



【SDGsにおける17の国際目標】(出典) 外務省HP JAPAN SDGs Action Platform

出典：社会資本整備審議会 第44回計画部会（2020（R2）.4.30）資料

(4) デジタル革命の本格化

- 情報通信ネットワークやIoT、AI、ロボット等の利活用が急速に進展。ICT技術の利活用は生産性の向上に大きく寄与。
- 社会資本整備の分野においても、データや新技術を生かした業務の高度化・効率化の取組は、今後更に重要に。

■ データ通信量・処理能力の急速な拡大

- **世界での情報通信量は**、1993年からの約30年間で**約1.3倍増加**。
- AI等を支える**情報処理技術の能力**は、1997年から**約160倍向上**。



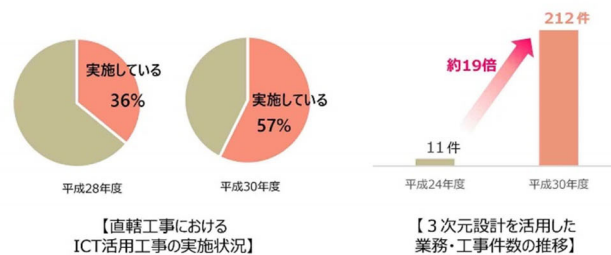
■ ICTによる生産性の上昇

- **ICT技術は業務の効率化を促すのみならず、新たな付加価値の創出**にも大きく寄与。



■ インフラ分野における技術実装

- 社会資本整備の現場において、ICT技術の活用が加速。



- メンテナンス分野において、ロボット技術等を活用した点検業務の効率化・高度化の取組が進捗。



【ロボットによるインフラの点検画像の取得】

出典：社会資本整備審議会 第44回計画部会（2020（R2）.4.30）資料

(5) インフラの老朽化

- 高度経済成長期に集中的に整備された社会資本の老朽化が、今後加速度的に増加。
- 社会経済活動や国民の安全・安心の確保の基盤となるインフラが、その機能に支障が生じる前に対策を行う「予防保全」へ本格的に転換することにより、トータルコストの縮減・平準化が不可欠。
- 一方、現状は、老朽化対策の遅れにより、既に施設に損傷が見られるなど、機能に支障が生じているインフラが多数存在。

■ 深刻化するインフラの老朽化

- 今後、建設後50年以上経過する社会資本の施設の割合が加速度的に増加。



■ メンテナンスコストの増大

- 今後の維持管理・更新を「事後保全」により行った場合、30年後、その費用は約2.4倍増加。
- 仮に「予防保全」に転換しても、30年後の維持管理・更新費は約3割増加。
- 「予防保全」により行った場合、「事後保全」と比較して、その費用は約5割縮減。



■ 早期に対策が必要なインフラの現状

- 現状は、老朽化対策の遅れにより既に施設に損傷が見られるなど、機能に支障が生じているインフラが多数存在。

分野 ^{※2}	点検対象施設数 ^{※3}	うち 要緊急対策施設数	
道路	橋梁	717,391施設 (H31.3.31)	69,051施設 (H31.3.31)
	トンネル	10,718施設 (H31.3.31)	4,416施設 (H31.3.31)
	道路附属物等	39,873施設 (H31.3.31)	6,062施設 (H31.3.31)
河川	約14,300km 約8,500施設 (R2.3.31)	約3,600km 約1,800施設 (R2.3.31)	
砂防	砂防設備：約83,000基地すべり・急傾斜：約37,000区域 (R2.3.31)	砂防設備：約3,000基地すべり・急傾斜：約6,000区域 (R2.3.31)	
海岸(海岸堤防等)	約5,900km (H31.3.31)	約780km (H31.3.31)	
下水道(管路施設)	4,274km (H31.3.31)	11.6km (H31.3.31)	
港湾	58,839施設 (H31.3.31)	10,178施設 (H31.3.31)	
空港(土木施設 ^{※4})	80空港 (H31.3.31)	7空港 (H31.3.31)	
航路標識	2,400施設 (H31.3.31)	267施設 (H31.3.31)	
公園	86,662施設 (H31.3.31)	21,480施設 (H31.3.31)	
公営住宅	2,162,484戸(H31.3.31)	1,150,506戸(H31.3.31)	
官庁施設	9,283施設(H31.4.1)	743件 ^{※5} (R1.8.20)	

※1：各施設数は括弧内の時点の数字

※2：要緊急対策施設がない分野は除く

※3：点検対象施設数には点検未了のものも含む

※4：空港土木施設(幹線排水、共同溝、地下道、橋梁、護岸)

※5：老朽を理由とした修繕計画のうち、緊急を要すると判定された計画の件数

出典：社会資本整備審議会 第44回計画部会(2020(R2)4.30)資料

(6) 「新しい生活様式」への対応

(「新しい生活様式」を踏まえた身近な公園利用のポイント)

「新しい生活様式」を心がけて公園をつかおう！…4つのポイント

- 新型コロナウイルス感染症に備えた「新しい生活様式」の中では、心と体の健康を保つため、体を動かしたり、屋外でリフレッシュすることも大切です。
- 以下の4つのポイントに気をつけ、マナーと思いやりを大切に、身近な公園を利用しましょう。

1. 体調が悪いときは利用を控える



- ☑ 発熱、咳、のどの痛みなど体調不良の際は外出を控えましょう

2. 時間・場所を選び、ゆずりあおう



- ☑ 混んでいると感じたら時間を変えるか別の公園を探しましょう
- ☑ 利用する時間はいつもより短めにしゆずりあいましょう

3. 人と人とのあいだをあげよう



- ☑ 他の利用者とは、できるだけ2m(最低1m)離れましょう
- ☑ 十分な距離をあげられる時は、マスクをはずしましょう

4. こまめに手洗いしよう



- ☑ みんながよく触れる場所に触ったあとは手洗いしましょう
- ☑ 家に帰ったら、まず手と顔を洗いましょう

※ この資料は、「新しい生活様式」を踏まえた公園利用の基本的なポイントを示したものです。具体的な公園の利用については、各公園や地域の状況に応じて判断していただく必要があります。利用者みなさまにおかれては、各公園の管理者から示されている注意事項等も十分ご確認ください。ご利用ください。

出典：国土交通省「新しい生活様式」を心がけて公園をつかおう！4つのポイント(概要版)

New Normal Park Life

新たな日常×公園の魅力

陽の光
光を浴びて
元気いっぱい。

そよ風
吹く風は
心地よい
自然の換気。

大空
見上げれば
隣町にも
宇宙にもつながる
開放感。

五感
色や匂いで
季節を感じる。
いきもの、花、木々の
リアルなふれあい。

広がり
天井や壁のない
広々とした空間。
食事もうったり
気持ちよく。

木陰
木々の枝葉に
守られ
外でも涼しく。

**地域との
つながり**
リモートワークが
続いても
公園に行けば
誰かに会える。

**もっと公園に
出かけましょう**



国立成育医療研究センター理事長 五十嵐 隆
子どものころと体の発達にとって、戸外で遊ぶ
ことはとても重要です。この時期であるからこそ、
公園を上手に利用していただきたいと思います。

公園はいつもあなたのそばにある！

新型コロナウイルス感染症の広がりにより外出を控えることが多くなり、健康二次被害が指摘されています。屋外で気持ちよく過ごし、感染症に負けない健康な心と体をつくることも大切です。そんな中、身近な公園が注目されています。歴史的にも、都市に公園をつくる大きな目的は衛生上の必要とされ、「都市の肺」として

整備が進められてきました。そしていまは全国に1人あたり10㎡のストックがあります。身近な緑のオープンスペースで、リフレッシュしたり、体を動かしたりできるんです。公園では、リモートでは体験できない五感で感じるリアルな体験が待っています。

全国都市公園整備促進協議会 <https://www.posa.or.jp/sokushin/>
お近くの公園の情報は、市区町村のHPなどで探することができます。さあ、公園に出かけ、利用のルールを守ってもっと楽しい時間を過ごしましょう！

新しい生活様式で公園を楽しむ方法

アイデア無限大

New Normal Park Life

青空の下でエクササイズ
土や草の匂いを感じながら、大きく深呼吸。体を動かして活力を取りもどそう！

歩数計を持って出かけよう
草木や花を眺めながら歩くだけで、心も身体もリフレッシュ。坂道があればハイキング気分も味わえる。

シートひとつでどこでもカフェ
風通しのよい公園で、お気に入りのコーヒーを。

アウトドアでやってみよう
太陽の下、フライングディスク、バトミントン。木陰でトランプ、将棋だって。たまには仕事も外で気持ちよく。遊び方も楽しみ方もあな次第。

お気に入りの場所でゆったり
芝生で寝ころんでOK！好きな場所で本を読んだり、音楽を聞いたり、緑を眺めてリラクスタムをどうぞ。

すぐにける遊園地
ブランコも滑り台もお家のすぐ近くに！小さな公園も子どもにとっては大きな遊園地。

土に触れて自然を感じる
しゃがんで土いじり。地面を観るとバッタ、アリの巣、ダンゴムシ。

草花と外遊び
シロツメクサの花飾りや笹舟作り、オオバコ草相撲…草遊びで身近な草を知り、花の香りや季節を感じて、思い出づくり。

生きもの探しの大冒険！
セミの抜け殻、トンボの産卵…公園は、大自然への第一歩。まるで、様々な不思議や発見がある身近なジャングルです。

全国都市公園整備促進協議会 <https://www.posa.or.jp/sokushin/>
お近くの公園の情報は、市区町村のHPなどで探することができます。さあ、公園に出かけ、利用のルールを守ってもっと楽しい時間を過ごしましょう！

出典：全国都市公園整備促進協議会 New Normal Park Life ポスター

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式

将来像の記載内容		取組主体	個別施策	目標	○年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																		
大項目	項目					今後の具体的な取組み	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)								
将来像1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																								
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●本公園の将来像の実現に向けて「国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会」で各主体の連携を強化し、継続的なフォローアップを行う。 ●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	国	関係主体の協議の場として「国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会」を運営	●協議会を年2回開催するとともに、フォローアップのための園内関係機関の会議を月1回開催																			
			全主体	各機関間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセレモニー、海の冒険団、カッター教室等）	●連携メニューの一層の充実																			
	公園の外との連携強化	●公園、志賀島や西戸崎等の地域関係者がオールうみなかで地域の魅力を発信する「（仮称）うみなかたび推進会議」を設置し、ポータルサイトなどによりエリアで一体となった情報発信を行う。	管理センター	“うみなかたび”ポータルサイト設置 海の中道エリア一体となった情報発信	●2021年度（R3年度）～ポータルサイト開設し、公園全体の魅力を発信																			
			管理センター	「オールうみなか」でのプロモーション主導（うみなかたびプロデュース） 「うみなかたび推進会議」開催	●2020年度（R2年度）～会議開催を通じ、公園施設や地域一体となった旅のプランを企画し、ポータルサイト等で情報発信																			
海の中道ならではの多様なレクリエーションの提供	多様なニーズへの対応	●既にファミリー層の利用者が多いC地区はその魅力をより強化、Park-PFI事業が開始されるB地区は大人向けエリアとして整備・管理運営を行うなど、利用状況、特徴等に応じた各エリアの差別化を一層推進し、多様な層へ多様な楽しみ方を提供する。 ●日本と世界を繋ぐ、公園内外を繋ぐ、人と人々を繋ぐ「繋がり」のエントランスとして海の中道駅口をリニューアルする。	国	多様なニーズの受け皿となるよう園内全体のゾーニングの再整理（ファミリー層向けエリア、大人向けエリア、歩行者空間等）	●2021年度（R3年度）にゾーニングを再整理し、そのゾーニングに基づき計画的に整備																			
			国	日本と世界を繋ぐ、公園内外を繋ぐ、人と人々を繋ぐ「繋がり」のエントランスとして海の中道駅口をリニューアル	●2021年度（R3年度）から検討、設計に着手し、2023年度（R5年度）までに再整備完了																			
			国	施設の老朽化、陳腐化等を踏まえた遊具の適切な更新と魅力向上	●2021年度（R3年度）：ちびっこ広場の遊具更新 ●2022年度（R4年度）：ユニバーサルデザイン遊具の更新																			
			P-PFI	Park-PFI事業の開始、運営（球体テント、立体アスレチック施設の整備）																				
海の魅力の発揮	●穏やかな海に面した砂浜が広がるB地区未供用区域を、海と触れ合うことができる海浜レクリエーション空間として整備する。 ●博多湾、玄界灘海浜部での海や砂浜を活用したアクティビティを導入する（SUP、カヤック、ホースライディング等）。	国	B地区未供用区域の整備（親水空間としての活用）	●2021年度（R3年度）～2025年度（R7年度）：B地区の動植物等の環境調査、計画、設計 ●2026年度（R8年度）以降整備着手、2030年度（R12年度）頃供用																				
		P-PFI	博多湾、玄界灘海浜部でのアクティビティ導入（SUP、カヤック、ホースライディング等）	●新たなアクティビティの導入でこれまで利用の少なかった園内海浜部を活用し、公園の魅力向上に寄与する。																				
		マリナー	一般に開かれたマリナー運営（クルーズ体験、ヨット教室、公園利用者にも利用しやすく）	●2021年度（R3年度）からヨット教室の準備を行い、2022年度（R4年度）開催 ●公園利用者も利用しやすいように広報の連携を強化																				
食の魅力の充実	●地産地消、食育などのテーマ性のある食の提供、地域と連携したマルシェの開催など海の中道ならではの飲食サービスを充実させる。	国	園内施設の集約再編にあわせた新たな飲食施設の整備	●2024～2025年度（R6～R7年度）に園内のレストハウス等を集約再編し、新たな飲食施設を整備																				
		P-PFI	地域と連携したマルシェ等のイベントの開催	●定期的に地域イベントを開催することで海中地域の魅力を発信する。																				
		P-PFI	収穫体験や食育、地産地消等の要素を加え新たな体験型アクティビティとしてのBBQサービス提供	●周辺地域と連携し、地場産品を利用した飲食・体験価値を提供する。																				

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式

将来像の記載内容			取組主体	個別施策	目標	○年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																		
大項目	項目	今後の具体的な取組み					2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)									
将来像1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																									
海の中道ならではの多様なレクリエーションの提供	食の魅力の充実	●地産地消、食育などのテーマ性のある食の提供、地域と連携したマルシェの開催など海の中道ならではの飲食サービスを充実させる。	管理センター	四季折々のイベントの魅力を高める多様な食体験の充実	●2020年度（R2年度）～ レストランにてフードフェア実施 ●2020年度（R2年度）～ 秋イベントにてアジアメニュー ●2020年度（R2年度）～ 冬イベントにてホットメニュー提供 ●2022年度（R4年度）～ 春イベントにてコーヒーフェスタ実施																				
			管理センター	“いまだけ・ここだけ・気軽に”を楽しめる飲食サービスの充実（「花カフェ」の運営、インクルーシブカフェの設置）	●2020年度（R2年度）～ 春秋を主に季節売店の営業（花カフェ） ●2022年度（R4年度）～ 大芝生広場売店リニューアルにより飲食メニュー充実																				
地域活性化	地域活性化	地元と連携し、収穫体験、釣り体験等のアクティビティ、志賀島と連携したサイクルツーリズムなど、公園を起点とした地域観光への誘導を推進する。 地域との連携によるイベントの開催などにより、公園と地域の集客施設等との相互利用を促進する。	管理センター	「サイクルツーリズム」により公園と地域をつなぐ観光振興を主導	●2020年度（R2年度）～ 地域民間事業者や福岡市と連携し自転車観光促進等を促進。渡船場より園外レンタサイクルを実施																				
			管理センター	「キャンプハカタプロジェクト」による“地域の新しい魅力”の発掘	●2020年度（R2年度）～ 秋季に地元商工会等と連携し西戸崎地区を中心としたサイクルガイドツアーを実施																				
			ホテル	地域の施設や地元業者と連携する。（地元陶芸、野菜収穫＆ランチ）	●2021年度（R3年度）春頃から西戸崎の陶芸工房と連携した陶芸教室を開催 ●志賀島の契約農園で野菜等を収穫し、その食材を使ったランチを提供するプランを開始																				

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式

将来像の記載内容			取組主体	個別施策	目標	○年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																	
大項目	項目	今後の具体的な取組み					2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)								
将来像2：海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園																								
海の中道回 有の白砂青 松の景観の 保全、再生	マツ林育成	●玄界灘側のD地区未供用区域のマツの植栽等を推進する。 ●樹幹注入等の松くい虫対策や植林箇所の密度管理等、マツ林の育成保全の取組を継続して実施する。	国	D地区の未供用区域の整備	●2030年度（R12年度）頃に供用できるよう、継続的にマツの植栽等を実施																			
			国	園内の松林を保全・育成するための樹幹注入や薬剤散布等の松くい虫対策、間伐	●園内全域で健全なマツ林を維持・継承																			
	多様な主体との協働	●公園内外のマツ林育成保全のため、マツ林の保全活動に取り組む自治体、市民団体等との協働、情報共有等を推進する。 ●江戸時代から続くクロマツ林の植林の取組みを紹介するガイドツアーやボランティアによる植栽、海岸清掃などを通じて市民と協働で白砂青松の景観を保全する。	管理センター	「白砂青松海浜公園サミット」の開催	●2022年度（R4年度） 松林の保全活動に取り組む団体等呼びかけ開催、活動課題や良好事例の情報共有及び今後の活動にフィードバック																			
教育施設、 環境学習 フィールド として活用	人材育成	●環境教育の指導者を養成する講習会の開催など、人材育成の取組みを推進する。	管理センター	「環境教育指導者養成講習会」の開催	●2020～2021年度（R2～3年度） 一般募集及び公園関係機関スタッフ対象に開催 ●2022年度（R4年度） 九州JAZA会員の動物園・水族館スタッフ対象に開催																			
			管理センター	新たな環境学習プログラムの実施（水辺の生き物観察体験、プロジェクトワイルドin森の池等）	●2020年度（R2年度）～ 新規開園した「森の池」を活用したプログラム提供 ●2020年度（R2年度）～ マリンワールドと連携した保全活動の普及啓発イベント実施																			
	環境学習	●森の池、動物の森、マリンワールド海の中道など園内の多様な資源を活かすとともに、それらの連携により、多様で、学習効果の高いプログラムを提供する。	管理センター	「森の池市民協働運営協議会」による運営管理のコーディネート	●2020年度（R2年度）～ 協議会参画団体の協力を得た「森の池」の利活用プログラムの提供																			
マリンワールド			環境共生の森での絶滅危惧種の保全、外来種の駆除	●光と風の広場「環境共生の森」のため池を利用し、希少淡水魚ニッポンバラタナゴ域外保全活動を行う。また一般市民が参加できる環境学習の場として定着させる。 2021年度(R3年度) 孵化稚魚のため池放流 2022年度(R4年度) 成長観察 2023年度(R5年度) ため池での自然産卵 ●希少淡水魚の生活環境多様化のため、また環境学習の実践場として「水路」「水田」の整備	●孵化稚魚のため池放流 ●成長観察 ●移植個体の自然産卵 ●保全活動の継続・定期的な観察会																			
			海の家	自然観察活動（動植物観察、貝殻採取、ピーチクリリーンアップ、天体観察等）	既存の活動プログラムの見直し・リニューアルを図り、自然教室や主催事業（イベント）での満足度を上げる。																			
	P-PFI	共生の森・森の池での自然観察		共生の森・森の池での自然観察	観察プログラムを通じ、海中地域や海浜公園特有の自然環境への理解を深める。																			

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式

将来像の記載内容			取組主体	個別施策	目標	○年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																				
大項目	項目	今後の具体的な取組み					2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)											
将来像3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園																											
スポーツ・レクリエーションの場としての機能充実	運動	●既に市民の多様なスポーツの場として親しまれている雁の巣レクリエーションセンターの区域を、福岡市が管理する現行の形を基本として国営公園として供用するとともに、他の公園区域との連携を強化する ●園内の園路の改修等により、サイクリング専用コースやジョギングコースなどの運動ができるコースの設定を行う。	国、福岡市	雁の巣レクリエーションセンターの国営公園区域としての供用	●雁の巣レクリエーションセンターと他の区域との連携方策、整備内容や運営方法等の調整		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	健康増進	●海浜部を活用したビーチラン、ビーチヨガなど、海の中道の自然が満喫できる魅力的な健康プログラムを実施する。 ●デニスコートやサンシャインプールなど、多くの既存施設の特性を生かした健康プログラムを充実させる。 ●志賀島-海の中道サイクルツーリズム協議会や福岡県・福岡市の健康や学習に関する施策と連携した取組を推進する。	国	健康づくりのためのサイクリング専用コースの設置	●2023年度(R5年度)までにサイクリングコースを再編・改修して専用コースを整備			■	■	■																	
			管理センター	ビーチラン	●2021年度(R3年度)～ 玄界灘の海岸線を活用したランイベントを開催	■	■	■																			
			管理センター	サンシャインプールでの水泳教室、水中エクササイズ等プログラムの実施	●2021年度(R3年度)～ 夏季に各プログラムを実施	■	■	■																			
			ホテル	新たな（健康）レクリエーションの導入（サブネス）	●2021年度(R3年度)春頃からサブネスを実施																						
			テニス	幅広い年齢層を対象としたスクールや大会の開催、健康クリニック付き高齢者テニス	●幅広い年齢層を対象としたスクールや大会を継続的に開催。 ●2021年度(R3年度)に健康クリニック付高齢者テニスをイベントとして開催																						
			P-PFI	パノラマ広場でのヨガ等健康アクティビティの実施	●通常と異なる環境下での活動によりモチベーション維持し、継続的な運動を促す。																						
			管理センター	「サイクルツーリズム」により公園と地域をつなぐ観光振興を主導	●2020年度(R2年度)～ 地域民間事業者や福岡市と連携し自転車観光促進等を促進。渡船場より園外レンタサイクルを実施																						
癒やし		●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	管理センター	花を愛でながら食事が楽しめる花カフェの設置	●2020年度(R2年度)～ 春秋を主に季節売店の営業（花カフェ） ●テーブルセット等配置し休憩スペースを創出		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
			管理センター	ハーモニーとコントラストによる「花の丘」の再デザイン	●春：桜とネモフィラの色彩が織り成す見所づくり																						
			管理センター	市民協働による桜並木の創出	●桜の園の魅力向上と老朽化した桜並木の再生を目標に、市民協働で補植を実施																						
			P-PFI	レストラン&カフェ・バーの整備																							
			全主体	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応																							

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式

将来像の記載内容			取組主体	個別施策	目標	○年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																	
大項目	項目	今後の具体的な取組み					2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)								
将来像4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園																								
市民参加の場の充実	市民参加	●市民発案のプログラム、地域の方がインストラクター・講師等となったプログラムなど、市民が主体的に提供するプログラムを充実する。	管理センター P-PFI	市民とともに創り上げるプログラム（パークフィットネス） 地元講師を招いたワークショップやイベントの企画、地域住民企画のイベント等受け入れ	●2021年度(R3年度)～地域のインストラクターが講師となりヨガ教室などを開催 ●地域住民や地元団体の活動や発表の場、機会を創出し、公園利用を促進する。																			
学びの場	学びの充実	●様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ●食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。	国・管理センター	様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かした企業研修の場としての公園利用の推進	●2021、2022年度（R3、4年度）に公園を活用した企業研修のメニューの開発、試行を実施																			
			マリーナ	ブルーシーフード教室、ディンギーヨット教室の開催	●ブルーシーフード教室、ディンギーヨット教室をR3年度に準備、R4年度から開催。																			
			マリンワールド	自然保護への理解を深める自然への窓口となる施設運営	●展示水槽・展示生物を通して自然保護への理解を深める。 2021～2023年（R3～5年） 小笠原シロワニ調査(母島) 2023年度(R5年度) 衛星発信機調査(母島) 海浜公園光と風の広場 アマモ移植 アマモ場の創生 海洋動物の繁殖 ●野外観察会の実施（毎年2回実施）	小笠原シロワニ調査(母島) 衛星発信機調査(母島) アマモ移植、アマモ場の創生 海洋動物の繁殖 野外観察会の実施																		
			海の家	野外活動機会の積極提供	●他の機関とのコラボレーションによる、活動プログラムの実施や出張やブース出展などの提供機会を充実																			
			P-PFI	遊びながら学べるアクティビティの導入（アクティブラーニングを意識したプログラム開発	●アスレチックタワーの整備 ●段階的なプログラムの企画開発、実施																			
ユニバーサルデザイン の考えに基づく整備・ 管理運営	ユニバーサルデザイン	●ユニバーサルデザインによる園路や施設の整備、改修、本公園の災害時の避難場所としての機能を高めるための施設の耐震化を推進する。 ●障がいの有無にかかわらず、公園の楽しさを享受できるプログラムや施設の充実を図る。	国	ユニバーサルデザインによる施設整備、改修、避難地としての機能を高める施設の耐震化	●施設更新にあわせた園路、トイレ等のユニバーサルデザイン化、耐震化の推進、充実																			
			管理センター	すべての子どもと一緒に楽しめるインクルーシブ・プレイグラウンドの整備	●2022年度(R4年度)以降、カフェリニューアル後に収益の一部を還元し、大芝生広場レストハウス周辺に遊具を段階的に設置																			
			管理センター	大芝生広場レストハウス内売店みんなで創り・育む「インクルーシブ・カフェ」にリニューアル	●2021年度(R3年度) 設計 冬季に改修工事着工 ●2022年度(R4年度) 春季 リニューアルオープン																			
			マリンワールド	ソフト面におけるユニバーサルデザイン推進（スタッフへのコミュニケーション・接遇トレーニング、多言語リーフレット・デジタルサイネージ設置等）	●スタッフ接遇マニュアル作成、チェック及びトレーニングの継続 ●多言語生物解説の推進																			
			管理センター	障がいのある方も安心して楽しめる「動物ふれあい出張プログラム」の実施	●2021年度(R3年度)～ 大芝生広場レストハウス周辺にふれあいコーナーを設置し、動物スタッフが側面支援																			
			管理センター	動物の森において、障がいの者の心身の活性化に役立つケアプログラムを提供	●2020年度(R2年度)～ 青少年海の家利用団体等を対象に開催																			
			マリンワールド	特別支援学校等への移動水族館	●毎年2校実施																			
			テニス	障がい者がテニスを楽しめるコート整備	●車いすでも利用できるハードコートまでの動線を障害者でも利用しやすいように整備し、障がい者テニス大会を2022年度（R4年度）に誘致できるよう準備を進める。																			

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式

将来像の記載内容			取組主体	個別施策	目標	○年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																	
大項目	項目	今後の具体的取組み					2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)								
将来像4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園																								
ユニバーサルデザイン の考えに基づき整備・ 管理運営	園内移動	●公園全体の交通ネットワークの再整理を行った上で、サイクリングコースやバスルートの再編、新たな休憩・交通の拠点の整備など必要な対策を実施する。 ●広い公園をスムーズに、楽しく移動できる新たなモビリティの導入などにより、園内の回遊性を高める。	国	公園全体の交通ネットワークの将来形の検討とその検討結果に基づく園路等の改修、再整備	●2021年度(R3年度)：全体計画の整理 ●2022年度(R4年度)以降：優先順位に応じて順次改修																			
			国	C地区の利用が集中している場所にスクラップ&ビルドにより新たな交通・休憩の拠点を整備	●2024～2025年度(R6～R7年度)に園内のレストハウス等を集約再編し、新たな交通・休憩の拠点を整備																			
			管理センター	広い公園を“スムーズに楽しく”移動できるサービス向上（デマンド交通社会実験、パーソナルモビリティ 等）	●2020～2021年度（R2～3年度） パーソナルモビリティ活用の実証実験、及び既存園内交通の課題抽出 ●2022年度(R4年度)～ 既存園内交通に代わるサービス導入																			

海の中道海浜公園整備・管理運営プログラム(案)



令和3年3月○日

国土交通省 九州地方整備局

— 目次 —

1. 全体計画及び開園状況等	1
(1) 全体計画	1
(2) 供用の経緯	3
(3) 主な供用施設	4
(4) 利用の状況	5
(5) 公園のストック効果	5
2. 令和7年度までの整備及び管理運営の方針等	7
(1) 令和7年度までの整備・管理運営の重点事項・・・		7
(2) 整備方針	8
(3) 管理運営方針	10
(4) 事業効果	11

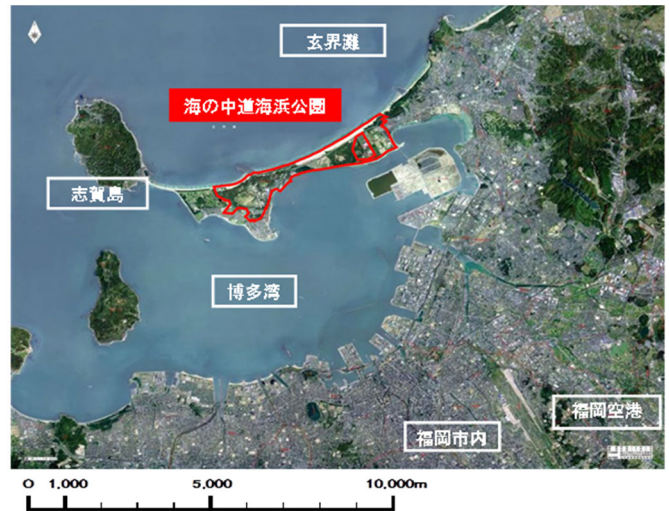
1. 全体計画及び開園状況等

(1) 全体計画

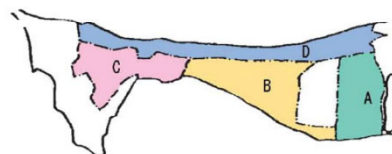
本公園は、玄界灘と博多湾を隔てて志賀島へ伸びる半島「海の中道」中央部(福岡県福岡市東区西戸崎)に、幅0.5～1km、長さ約6kmの区間にわたって位置するイ号国営公園(計画面積約539ha)の都市公園です。

戦後、米軍基地として使用されていた跡地を活用した地形は平坦で、海浜地特有のクロマツ林を主体とした海岸線を有し、玄界灘側は、自然海岸による海岸植物が分布していません。

北部九州における広域的レクリエーション利用、「白砂青松」の良好な自然環境の保全を目的とし、我が国5番目の国営公園として、昭和51年に事業着手しました。特色ある地形と、歴史的、文化的背景に留意し、自然環境を活かした自然学習の場の提供や公園内の芝生、花、池などの魅力的なランドスケープを形成し、魅力あふれる空間を創出することで、レクリエーション需要の増大と多様化に対応しうる国営公園をめざし、誰もが安全・安心・快適に利用していただけるよう整備・管理を進めています。



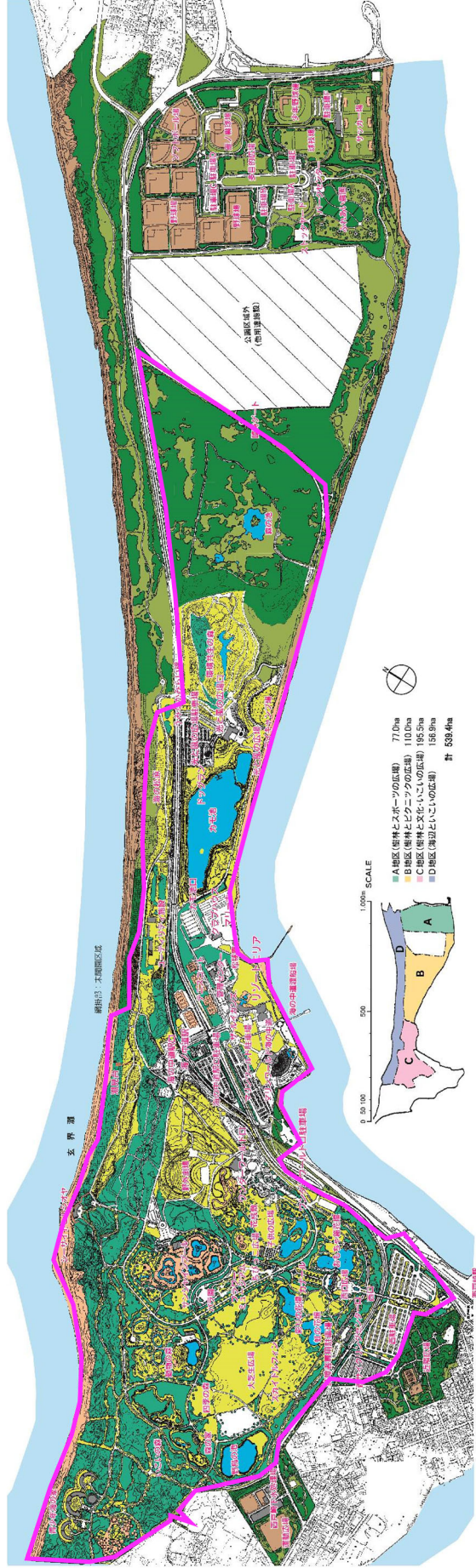
●公園のゾーニング



- A 地区 (樹木とスポーツの広場)
- B 地区 (樹木とピクニックの広場)
- C 地区 (樹木と文化・いこいの広場)
- D 地区 (海浜といこいの広場)

本公園は、「緑の樹林」「碧い海」「輝く太陽」を基本に、地理的・植生的特性、計画理念、建設手順及び管理運営手法等を勘案して全体的調和を図りながら、全体を4つの地区に分けて、自然条件を生かすテーマを設定し、テーマに応じた計画をたてながら、統一体として有機的に機能させることを目的としています。

海の中道海浜公園基本設計図



令和3年3月31日現在の供用区域

(2) 供用の経緯

海の中道海浜公園の設置は、昭和47年に米軍博多基地（キャンプ博多）が返還されたことに端を発しています。基地跡地が良好な自然環境を有していたこと、また、北部九州を中心とする広域圏域のレクリエーション需要の増大に対応する施設が必要とされていたことから、大規模都市公園として昭和50年度に都市計画決定されました。

その後、昭和51年度より整備を進め、昭和56年10月に「西口広場」「大芝生広場」「動物の森」を含む約59haを開園しています。その後も整備が完了した区域より順次開園しており、令和2年度末現在で、約350ha（計画面積の約65%）が開園しています。

年度	項目	供用面積
昭和47年度	米軍博多基地返還（515.2ha）	
昭和50年度	都市計画決定	
昭和51年度	事業着手	
昭和56年度	C地区西口広場、大芝生広場、動物の森供用開始	59ha
昭和58年度	C地区サンシャインプール、野鳥の池供用開始	73ha
昭和59～61年度	C地区子供の広場供用開始	102ha
昭和62年度	C地区宿泊研修施設供用開始	116ha
平成元・7年度	D地区青少年海の家、C地区マリンワールド（海洋生態科学館）供用開始	189ha
平成11年度	C地区いこいの森（森の家）供用開始	206ha
平成13年度	B地区光と風の広場（デイキャンプ場）供用開始	230ha
平成16年度	D地区潮見台エリア供用開始	249ha
平成21年度	B地区環境共生の森（みらいの森）供用開始	265ha
平成22年度	D地区玄界灘海浜部中央部及び西部供用開始	292ha
平成25年度	C地区中央駐車場供用開始	294ha
平成28年度	B地区博多湾パノラマ広場供用開始	298ha
令和元年度	C地区ワンダーワールドA駐車場供用開始	298ha
令和2年度	B地区森の池供用開始	350ha
供用面積 計		350ha



パノラマ広場



B地区森の池

(3)主な供用施設

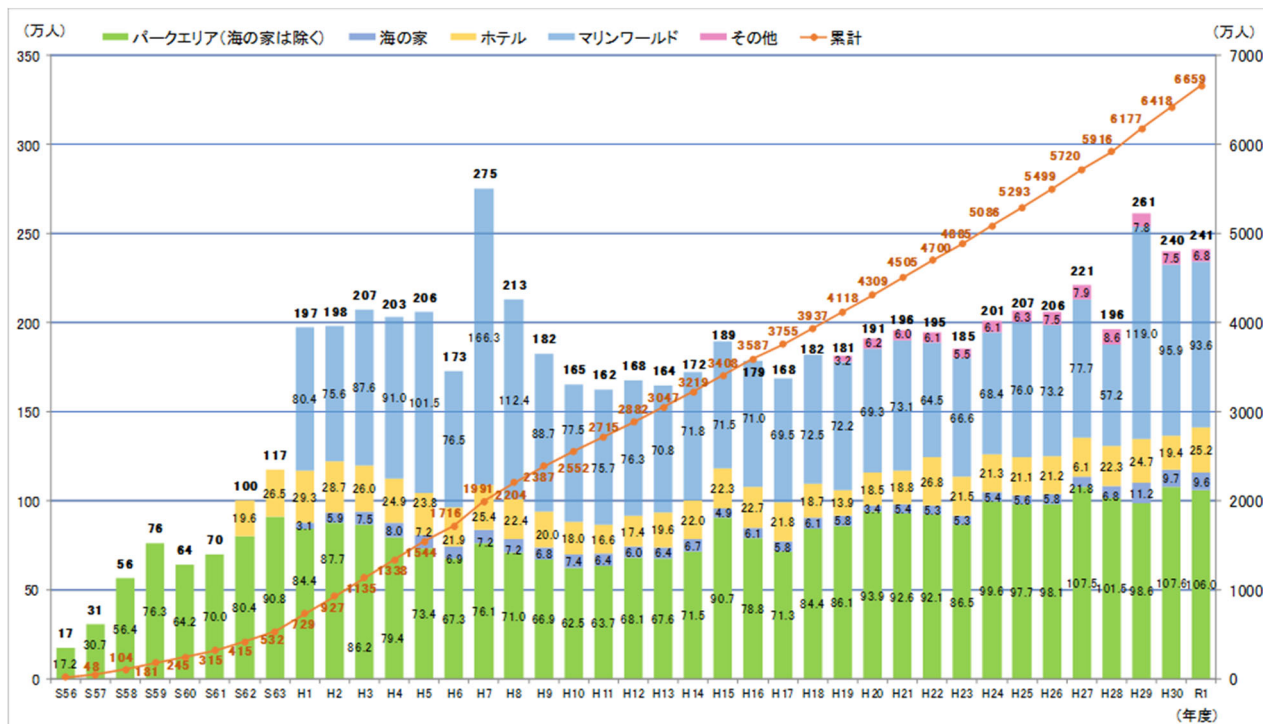
昭和 56 年に開園し、開園エリアを順次拡大しながら多種多様な利用者ニーズに応えられるように現在も施設を整備しています。

令和 2 年度には、マツ林を主として自然散策、自然観察が楽しめる「森の池」(51.8ha)を新たに供用開始しています。

C地区(パーク)		
<p>動物の森 動物と直接ふれあうことの出来る動物園。</p> 	<p>大芝生広場 広大な芝生の広場は花修景や各種スポーツ大会など、様々なレクリエーションが楽しめる空間。</p>  	<p>子供の広場 子供たちのための遊具などを備えた遊べる空間。</p> 
<p>サンシャインプール 6つの多様なプールを備える西日本最大級のレジャープール。</p>  	<p>カナル/フラワーミュージアム 水と緑がおりなす優雅な空間・屋根のない美術館をイメージした花の空間。</p>  	
C地区(リゾート)		B地区
<p>マリンワールド/ホテル ザ・ルイガンズ 海洋生態科学館(マリンワールド)は平成28年4月より、研修宿泊施設(ホテル)、テニスコート、マリナは平成30年4月より、それぞれ20年間のPFI事業者による管理運営事業がスタート。マリンワールドはリニューアルにより利用者が大幅に増加。</p>  		<p>博多湾/パラマ広場/光と風の広場/デイキャンプ場 3.5haの芝生広場と博多湾を挟んで福岡市街地を一望でき、様々なイベントに活用できる芝生広場(H29.3供用)やバーベキューなどが楽しめる施設。</p>  
B地区	D地区	
<p>森の池 マツ林を主とする樹林、不定期に現れる「幻の池」など、自然散策や自然観察が楽しめる空間(令和2年度供用)。</p> 	<p>青少年海の家 雄大な玄界灘に面し、研修・宿泊棟やキャンプ場などを有する野外活動拠点施設。</p>  	<p>玄界灘海浜部 海浜部の絶景のサイクリングコース。</p> 

(4)利用の状況

昭和 56 年に開園以降、施設の充実に伴って入園者数は年々増加し、マリンワールドが完成した平成 7 年度に、最多となる 275 万人の入園を記録しました。平成 29 年度には、歴代 2 番目となる約 261 万人の方々に利用され、令和元年度までに累計で約 6659 万人の方に利用頂いています。



(5)公園のストック効果

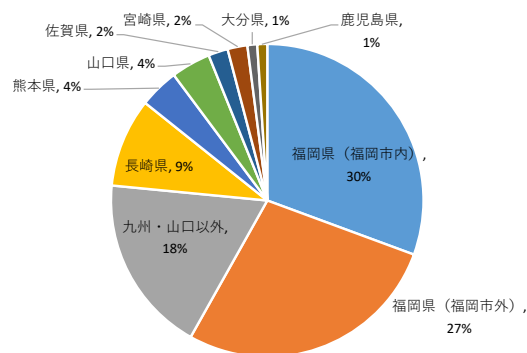
1) 防災性向上効果

公園内の広場や駐車場など約 30ha (約 15 万人分の避難地に相当) が福岡市の地区避難場所、広域避難場所に指定されており、地震等の災害時に多くの避難者を受け入れることができます。

2) 健康レクリエーション空間提供効果

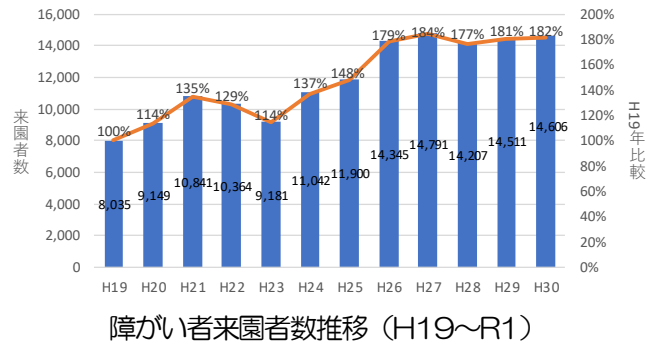
- 年間 200 万人以上が訪れる広域レクリエーション拠点を創出

時代に応じて多様な魅力を提供することで、福岡市を代表するレクリエーション拠点として定着しており、県内・県外から広域的に利用される施設となっています。



来園者の居住地 (R1 年度)

また、公園を訪れるすべての人が利用しやすいように公園全体のユニバーサルデザインを平成20年から進めています。利用制限の情報発信や施設整備（トイレ、車いす対応、授乳室等）を計画的に実施し、すべての人が自然とふれあい、心身のリフレッシュができる場を提供しています。その成果として、障がい者の来園者数が平成19年度比で約1.8倍になっています。



3) 景観形成・文化伝承効果

- 「日本の白砂青松 100 選^{*}」に選ばれる松原を保全・育成

(※) (社) 日本の松の緑を守る会が選定した100ヶ所の日本の景勝地

海の中道の景観を特徴づけるクロマツ林を保全・育成し、海の中道固有の白砂青松の景観を保全しています。これまでの取組みが、本公園区域を含む海の中道の松原の「日本の白砂青松 100 選」の選定に繋がっています。



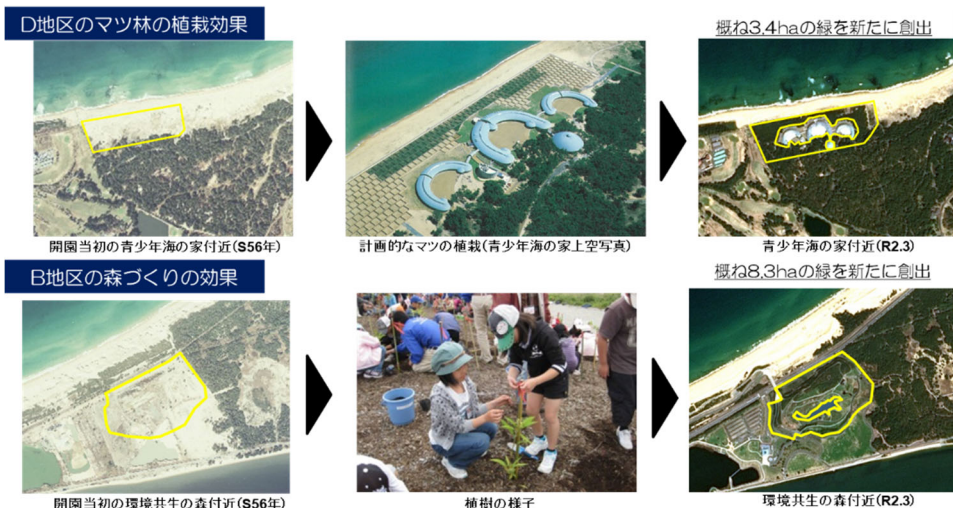
白砂青松の公園景観

4) 環境維持・改善効果

- 新たに10ha（サッカー場10面分^(※)）以上の緑を創出

(※) 「スタジアム標準」(JFA)のフィールドの大きさ：125m×85m=10,625㎡をもとに算出

開園以来、D地区の松の植林やB地区における新たな森づくり等の自然環境の保全・創出に取り組んでおり、少なくとも約11.7haの緑地が新たに創出されています。



2. 令和7年度までの整備及び管理運営の方針等

(1) 令和7年度までの整備・管理運営の重点事項

令和7年度までの整備・管理運営は、「うみなかビジョン 2030～国営海の中道海浜公園の将来像～」において掲げている4つの将来像の実現に向けた取組を推進します。

【令和7年度までの整備・管理運営重点事項】

1. 「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園

本公園の多様な施設、豊かな自然を活用してより一層多様な楽しみ方を提供することで、本公園を訪れる方が元気になるとともに、本公園の存在が周辺地域の一層の発展、活性化に寄与することを目指します。

具体的には、令和2年7月に設置した有識者、園内施設の運営者、福岡県・福岡市、公園管理者をメンバーとする「国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会」を活用した継続的な魅力向上や、西戸崎や志賀島、アイランドシティ等公園の外の周辺地域との連携をより一層推進し、海の中道ならではの楽しみ方や飲食サービスの提供、公園を起点とした地域観光への誘導などを通じて、地域活性化に貢献していきます。

2. 海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園

江戸時代までは人も住めず、植物も生えない不毛の砂地だった海の中道を、花・緑豊かな公園として整備してきたこれまでの取組を後世に継承し、白砂青松の固有の景観を保全するとともに、その価値、大切さを伝えるため、玄界灘に面したD地区を中心にマツ林の育成・保全に取り組みます。

また、公園をフィールドとした環境学習を推進するため、環境共生の森や森の池等を活用した環境学習プログラムの一層の充実、ボランティア等と連携した継続的な森づくり等に取り組みます。

3. 心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園

福岡市の中心部に近接したみどり豊かで開放的な空間が、心豊かで健康的なライフスタイルを支える場、新型コロナウイルス感染症対策等に伴う運動不足、ストレスを解消する場として活用されるよう、自然を活かした健康プログラムの充実、感染症対策の徹底等による利用者の安全・安心の確保等を推進します。

4. 多様な人の多様な学び、活躍を支える公園

少子高齢社会の進展に伴い、今後増加するシニア世代が公園を通じて社会とつながる場となる、活躍できる場となるよう、多様なニーズに対応する多様な学びのメニュー、市民参加のメニューを充実させます。

また、全ての人が目的に応じて園内を円滑に移動し、楽しめるよう、ユニバーサルデザインに基づき、利用者の利便性を向上させるためのハード面の改修、ソフト面の充実を推進するとともに、既存の園内移動手段の改善、新たな移動手段の導入に向けた検討を推進します。

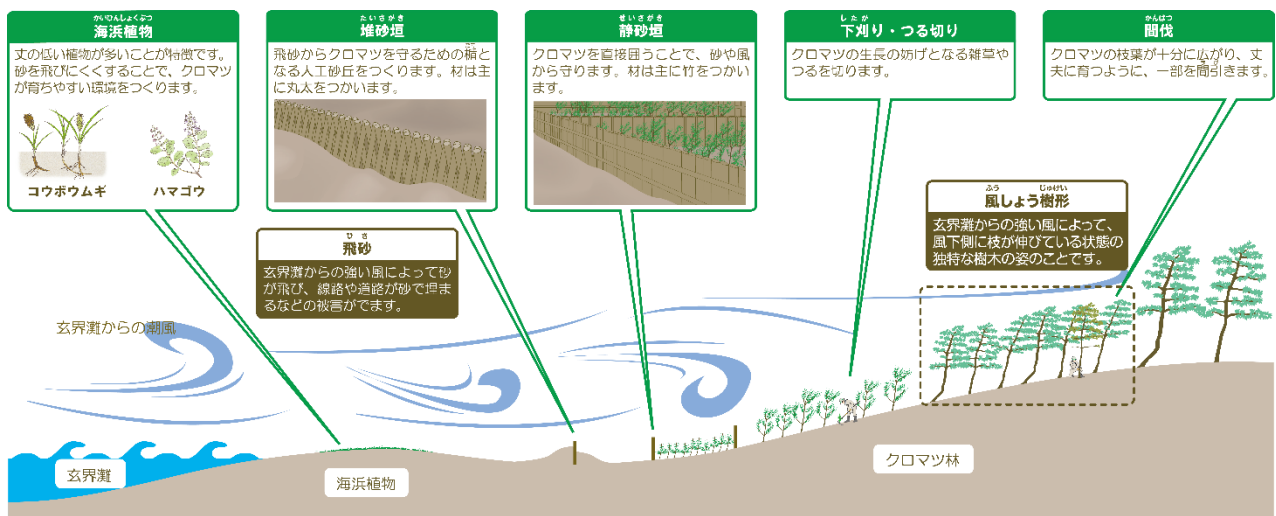
(2) 整備方針

1) 海の中道固有の「白砂青松」の景観の保全・再生

海の中道海浜公園は、国内最大級の「砂の道」の上にあり、原風景をおりなす「白砂青松」の景観を守るため、これまで継続的に松枯れ対策や松林再生を推進してきました。

今後も松林を後世につなぎ、「海の中道」の環境や地域住民の生活を守るため、松の植林や樹幹注入、薬剤散布等の松枯れ対策、間伐等による密度管理を行い、地域の資源を活かした、ここにしかない美しく風格のある松林風景の創出を目指します。

特に令和7年度までは、未供用区域であるD地区の海浜部において、将来的な松林の育成に向けた基盤整備、試験植栽等を市民やNPO団体等とも連携して推進していきます。



▲ 海岸林（クロマツ林）の育成イメージ



▲ 樹幹注入の様子



▲ 機械による薬剤散布

▲ 人力による薬剤散布
(機械の入らないところ)



伐採前



伐採後

2) 海の中道ならではの多様なレクリエーションの提供

既にファミリー層の利用者が多いC地区は遊具の更新・充実等によりその魅力をより強化、Park-PFI 事業が開始されるB地区は大人向けエリアとして整備・管理運営を行うなど、利用状況、特徴等に応じた各エリアの差別化を一層推進し、多様な層へ多様な楽しみ方を提供します。

具体的には、B地区に新たな滞在型レクリエーション拠点が整備され、事業開始できるよう民間事業者との連携を推進するとともに、C地区とB地区間の利用者の園内移動を円滑にするためのターミナル拠点として重要となる海の中道駅周辺エリアの利便性、魅力を向上させる取組を推進します。

具体的には、電車、バス等の待ち時間を快適に過ごすための休憩所や飲食物販施設の導入、初めて来園された方でも迷わない分かりやすい導線への再整備、多言語表記による案内の強化、他のエリアと差別化した新たな景観の創出等を行います。



円滑な園内移動のためのターミナル拠点としての海の中道駅口の再整備

大人が楽しめる場の整備 (B地区)

3) 園内交通の充実、駐車場の改善

園内をのんびり散策したい方、サイクリングを楽しみながら移動したい方、バス等で快適に移動したい方など、多様な方がそれぞれの目的に応じて園内を円滑に移動し、楽しむことができるよう、ユニバーサルデザインによる園路等の改修や利用状況を踏まえたレストハウスの統廃合、サイクリングコース、園内バスの運行ルート等の改善、パーソナルモビリティ等の新たな移動手段の導入に向けた検討など、園内交通の充実に向けた取組を推進します。

また、繁忙期における駐車場への入場待ちの車による渋滞の発生を改善するため、駐車場の駐車台数を増加させる等の対策を進めます。



サイクリング



車いす利用者のサイクリング



新たな移動手段の導入
(電動キックボード)

4) 持続的なサービス水準の維持・向上に向けた施設の集約・再編と魅力向上

本公園は、昭和 56 年の当初開園から概ね 40 年が経過し、当初に整備した施設を中心に施設の老朽化等が進行していることから、長寿命化計画に基づく計画的な施設の維持・更新を引き続き推進します。なお、施設の更新にあたっては、現在の利用状況・将来的な利用見込み等に応じて施設の集約・再編や機能向上をあわせて行うことで、維持管理コストを縮減しつつ、サービス水準を継続的に維持・向上させていきます。



老朽化した上水管



園内サインの更新・多言語化

(3) 管理運営方針

1) 多様な主体の連携による海の中道全体の活性化

「国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会」を活用し、マリンワールド海の中道やザ・ルイガンズ、等を運営するPFI 事業者、青少年海の家を運営する指定管理者、Park-PFI 事業を実施する事業者など園内の関係機関がそれぞれの強みを活かしつつ、連携して公園の魅力をより高める取組を推進します。

また、西戸崎や志賀島等公園の外の周辺地域との連携をより一層推進し、地域全体を活性化するため、公園と地域関係者が一体となって地域の魅力を発信するポータルサイトの設置や公園を起点とした地域観光への誘導などを推進します。



志賀島へのサイクルツーリズム

2) 豊かな自然を活かした環境学習

自然豊かな公園を環境学習のフィールドとしてより一層活用するため、環境共生の森におけるボランティア等と連携した継続的な森づくり、森の池における自然観察など、それぞれの場所の自然を活かした環境学習プログラムを充実させます。



ボランティア講習会の実施

また、福岡市が推進している、花をツールとし、市民・企業との共創により、まちの魅力や価値を高める取組「一人一花運動」等との連携など花や緑に関するイベントの実施等により、自然や環境に対する意識を高めるための普及啓発を推進します。

3) 健康的なライフスタイルを支える場づくり

自然を活かした健康プログラムの充実など、みどり豊かで開放的な空間で楽しみながら運動できる、身体を動かすことができる機会を提供し、健康的なライフスタイルを支える取組を推進します。



自然を活かした健康プログラム

4) 多様な人の多様な学び、活躍を支える場づくり

公園を訪れる全ての方に、それぞれの目的等に応じた多様な楽しみ方を提供できるよう、ファミリー層向けの学習イベントの実施、シニア世代の特技を活かしたボランティア活動メニューの拡充など多様な人の学び、活躍を支える場となるための取組を推進します。



昔遊び指導ボランティア

(4)事業効果

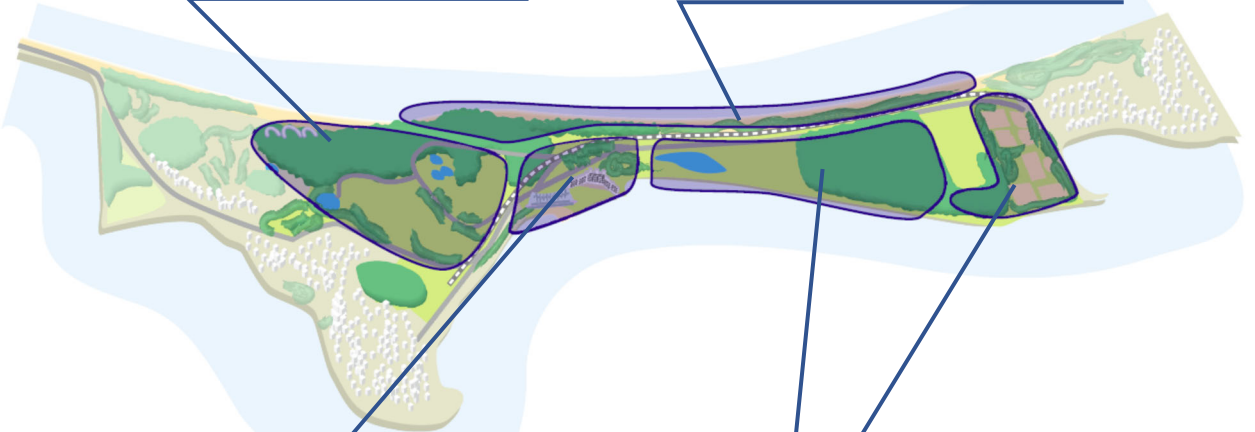
- 松林の育成・保全を行うことで、海の中道固有の「白砂青松」の自然・景観が後世へ継承されます。
- 海の中道駅口に新たに休憩所や飲食物販施設が再整備され、バスや自転車等の園内の移動手段が充実することで、利用者が広い園内を快適に、楽しみながら移動できます。
- 園内施設の集約・再編と魅力向上をあわせて行うことで、維持管理コストを縮減しつつ、サービス水準を継続的に維持・向上させることができます。
- 多様な主体が連携して海の中道の魅力を一体的に発信することで、公園の利用者数の増加、公園周辺地域の観光客の増加につながります。
- 豊かな自然を活かした環境学習を推進することで、自然や環境に対する意識の向上につながります。
- 自然を活かした健康プログラムの充実、多様な学びのメニュー、ボランティアの活動メニューを提供することにより、公園が健康的なライフスタイルを支える場、多様な人の学び、活躍を支える場となります。



今以上に魅力的な遊びの場



白砂青松の自然・景観を継承する場



快適に過ごせる癒やしの場

大人も楽しめる、学べる場

健康的なライフスタイルを支える場

